

2018年2月

「東京レインボープライド
2017 来場者アンケート調査」
報告書

駒澤大学文学部社会学科社会学専攻 松信ひろみ研究室

目 次

はじめに（調査の実施概要と結果の概況）	4-10
---------------------	------

第1章 アンケート集計結果

Q1 東京レインボープライド 2017 を知ったきっかけ	10
Q2 東京レインボープライド（パレード）への参加回数	10,11
Q3 参加目的	11
Q4 会場での催しの満足度	11-13
Q4SQ1 会場での催しに満足しなかった理由	14-16
Q5 レインボーウィーク期間の他の催しへの参加予定	16-17
Q6 東京レインボープライドに望む企画	17
Q7 LGBT 関連の団体や活動への参加状況	17-18
Q7SQ1 LGBT 関連の団体や活動に参加しない理由	18
Q8 学校での LGBT 教育の経験の有無	18-19
Q8SQ1 学校で経験した LGBT 教育の内容	19
Q8SQ2 学校での LGBT 教育の時期	20
Q9 職場での LGBT 研修の経験の有無と内容	20
Q9SQ1 職場で経験した LGBT 研修の内容	21
Q9SQ2 職場での LGBT 研修の対象者	21-22
Q10 学校での LGBT 教育への希望の有無	22
Q10SQ1 学校で希望する LGBT 教育の内容	22-23
Q10SQ2 学校での LGBT 教育の望ましい時期	23
Q11 職場での LGBT 研修への希望の有無	23-24
Q11SQ1 職場で希望する LGBT 研修の内容	24
Q11SQ2 職場での LGBT 研修の望ましい対象者	24-25
Q12 商品購入の基準（その製品の会社が LGBT に理解があるか否か）	25
Q13 職場選択の基準（LGBT に理解がある企業か否か）	25-26
Q14 新宿 2 丁目の LGBT が集まるお店の利用	26-27
Q15 同性パートナーシップ証明書の利用への意向	27
Q15SQ1 同性パートナーシップ証明書を利用しない理由	27-28
Q15SQ2 同性パートナーシップ証明書を利用する理由	28
Q16 日本で必要だと思われる同性カップルの法的保障制度	29
Q17 同性カップルが親として子どもを養育することの是非	29-30
Q18a LGBT であることでの不便・不自由（人付き合い）	30

Q18b	LGBTであることでの不便・不自由（日常生活）	31
Q18c	LGBTであることでの不便・不自由（様々な保障制度）	31
Q19	回答者の年齢	32
Q20	回答者の居住地	32
Q21	回答者の家族構成	33
Q22	回答者の職業	33
Q23	パートナーの有無	34
Q24	LGBTであるか否か	34
Q25	パートナーとの関係で望むこと	35
Q26	子どもの養育の意向	35
Q26SQ1	子どもをもちたい理由	36
Q26SQ2	子どもをもちたくない理由	36
Q27	回答者の身体的性と性自認	37
Q28	回答者の性的指向	37-38
Q29	回答者が自身のセクシュアリティを認識した時期	38
Q30	回答者のカミングアウトの状況	38-39
Q30SQ1	回答者がカミングアウトしている人	39

第2章 アンケート項目の「その他」の具体的内容と自由記述

Q1	「その他」	40
Q2	「その他」	40
Q3	「その他」	40-41
Q4SQ1a～e	「その他」	41
Q5	「その他」	42
Q6	具体的記述内容	42-43
Q7SQ1	「その他」	43
Q8SQ1	「その他」	43
Q9SQ1	「その他」	43-44
Q9SQ2	「その他」	44
Q10SQ1	「その他」	44
Q11SQ1	「その他」	44
Q11SQ2	「その他」	45
Q15SQ1	「その他」	45
Q15SQ2	「その他」	45

Q16 「その他」	45-46
Q20 「その他」	46
Q21 「その他」	46-47
Q22 「その他」	47
Q25 「その他」	47
Q26 「その他」	47
Q26SQ1 「その他」	48
Q26SQ2 「その他」	48
Q27 「その他」	48-49
Q28 「その他」	49
Q29 「その他」	49
Q30SQ1 「その他」	49-50
自由記述（感想・意見）	50-60
（参考資料） 調査票見本	61-75
あとがき（来場者アンケートを実施して）	76

はじめに（調査の実施概要と結果の概況）

本報告書は、2016年5月6日、及び7日に代々木公園イベント広場（東京都渋谷区）にて開催された「東京レインボープライド 2017」のステージイベント、ブース、パレードに
来場・参加された方々を対象として、特定非営利法人東京レインボープライド（共同代表：
山縣真矢・杉山文野）の協力を得て、駒澤大学文学部社会学科社会学専攻松信ひろみ研究
室（社会学演習Ⅰ）が実施した「レインボープライド 2017 来場者アンケート」の集計結果
である。本調査は、この度の催しに対する意見や感想を伺うことを主要な目的としてい
るが、加えて LGBT の方々の日ごろの生活や意識についても伺っている。なお、本調査は、
日本社会学会倫理綱領及び、日本家族社会学会倫理綱領に基づき、作成、実施し、「駒澤大
学『人を対象とする研究』に関する倫理委員会」の承認を得て実施された。

本調査の調査方法及び調査票の回収状況と結果の概要は以下の通りである。

1. 調査方法と対象者

- ① 「東京レインボープライド 2017」に来場された方を対象として、当日の会場入り口にてアンケート調査への協力を呼びかけ、協力してくださった方を対象とした。その場で自計式にて回答。調査票は 967 票配布し、回収できたのは 420 票である（回収率 43.4%）。うち有効回答は、419 票（有効回答率 99.8%）である。
- ② 「東京レインボープライド 2017」の HP に①と同じ内容の web アンケートへのリンクを掲載し、5月7日から2ヶ月の回答期間を設けて、回答してもらった。回収票は 336 票であった。
- ③ 本調査のデータは①と②をあわせた形で集計している（計 755 票）。

2. 本調査の結果の概要

以下では、イベントに関する意見、及び LGBT の方々の生活にかかわる意識等を中心として、本調査の概要を検討する。

- ① 今回初めて来場したという回答者は 50%、2 回目が 18.8%と昨年度と比較すると大きな差は見られなかった（昨年度は初めてが約 46%、2 回目が 22%であった）。一昨年は初めてが 57%、2 回目が約 14%であったことから、来場者の約半数は始めて来場する傾向があるといえる。来場のきっかけをみると、「以前から来場している」という割合が約 31%（昨年度 30%）を占めている。次いで多いのは、「友人・知人の紹介」が約 19%（昨年度約 16%）、「HP などインターネットのサイトを見て」が 15%（昨年度はこの項目はない）、「Twitter をみて」が約 13.4%（昨年度約 16%）となっており、以前からの来場者の割合には変化がないが、初めて来場するきっかけとしては、「友人・知人の紹介」が増え、「HP などのインターネットのサイトを見て」という割合が比較的多い傾向がみられた。

- ② 来場の目的として最も多かったのは、「ブースを見たり買い物をしたりするため」が約 59%であり、これは昨年と同じ割合である。また、第二位の理由である「LGBTに関する様々な情報を得るため」は、約 54%であり、昨年度の約 45%を上回った。
- ③ 会場での催し（ステージ、ブース、パレード）と会場に出店していた飲食店に対する満足度は「飲食店の屋台」を除いて、いずれも「満足している」が 50%を超えている。昨年度は「満足している」が 30%から 40%であり、前年度に比べてかなり満足度があがったことが伺われる。「まあ満足している」は、「ステージ」と「飲食店の屋台」、「会場全体」が 30%を超え、「パレード」と「ブース」が 20%台である。最も満足度が高いのは「パレード」と「ステージ」であり、ついで「ブース」である。「飲食店の屋台」に対する満足度は、他のものに比べて「満足している」割合は低いものの、昨年度に比べて「満足していない」6.8%（昨年度 7%）、「やや満足していない」15.1%（昨年度約 19%）と、昨年度よりは満足していない割合が減っているといえる。
- ④ 会場での催しと会場に出店していた飲食店に満足しなかった理由としては、「ステージ」については、「混雑していてよくみることができない」が約 40%と最も高く、次いで「開始時間、終了時間がよくわからない」が約 27%だった。「内容がよくわからない」（約 14%）、「内容に関心がもてない」（約 19%）については、それぞれ、昨年とあまり変化がなかった（昨年度、前者は約 17%、後者は約 14%）。「ブース」については、「通路が狭くて混雑している」が 39.6%と最も高く、次いで「どこに何があるのかわかりづらい」が 36.3%であった。「何のブースなのかわかりづらい」については 14.3%と昨年度と大きな変化はみられなかったが、「出展ブースに偏りがある」は 26.4%と高い割合であった（昨年度はこの選択肢は設定されていなかった）。「パレード」に関しては、「その他」回答が 64.3%と圧倒的に多く、こちらで設定した選択しでは、「メッセージ性が弱い」19.6%（昨年度約 14%）と「開始時間がよくわからない」19.6%が最も高い割合であった。「受付の制限が厳しい」も約 18%程度みられた。「飲食店」に関しては、「食べるスペースが狭い」が 49.6%と圧倒的に高く、これは昨年の約 21%の倍以上の結果となった。次いで「同じような内容の屋台が多い」が 33.9%と高い割合であった。「混雑しすぎていてなかなか買えない」が約 20%で、これは昨年とほぼ同じ割合であり、「どこに何があるのか場所がわかりにくい」も 12.4%であった。「会場全体」としては、「トイレの数が少ない」が 37.6%と最も高い割合であり、次いで「ブースや屋台など会場全体の配置がわかりにくい」が 32.7%と高い割合であった。また、「会場案内がわかりにくい」も 24.8%と比較的高い割合であった。
- ⑤ レインボーウィークの期間に会場以外で行われていた催しに関しては、「そのような催しがあることを知らなかった」という回答は約 20%であり、昨年度の 22%よりも下がっている。一昨年は 30%が知らないと回答しており、年々、レインボー

ウィークの催しが周知されるようになってきたことが伺われる。一方で、「いずれにも参加しない」が約 33%であり、この割合は昨年度の 30%よりも若干であるが増加している。「未定」に関しては、約 17%であり、昨年度の 20%よりは低くなっている。

- ⑥ LGBT 関連の団体や活動への参加については、「参加している」が約 31%であり、昨年度の 35%を下回った（一昨年は約 14%）。
- ⑦ 一方、LGBT 関連の団体や活動に参加しない理由としては、「関心はあるが、機会・きっかけがない」が 48%と全体の約半分を占めた（この選択肢については昨年は用意されていなかった）。「どのような団体や活動があるのかわからない」は、約 22%であり、昨年度の約 48%をかなり下回った。LGBT 関連の団体や活動については、周知されるようになってきたが、そこへ積極的に参加することの難しさが現れているといえるだろう。
- ⑧ LGBT 教育の経験に関しては、受けたことがある割合が 19%であり、昨年度の 21%を下回った。具体的に受けた教育の内容としては、「LGBT という言葉に触れた程度」が約 33%（昨年度 31%）、次いで「具体的な事例や現状の説明も受けた」が約 31%（昨年度 30%）、「当事者を招いて経験談などを聞く」が約 25%（昨年度 31%）であった。昨年度と比較すると、LGBT 教育の機会はあまり増えておらず、さらに行われるとしても、具体的な話や説明ではなく、言葉に触れる程度である傾向が指摘される。また、時期としては、大学生が約 67%と、圧倒的に高い。つまり、LGBT 教育は、大学の授業において、概念的な説明を受けるというケースが多いといえるだろう。
- ⑨ 職場での LGBT 研修に関しては、受けたことがある割合が 16%と昨年の 12%を上回った。しかし、その内容としては「当事者を招いて経験談などを聞く」が圧倒的に高く 31.5%であるものの、昨年度の約 45%をかなり下回っている。次いで多いのは「LGBT という言葉について簡単に触れた程度」の約 30%であり、LGBT 研修を取り入れる企業は増えているものの、表面的な研修も多いことが伺われる。だが、研修の対象者は「社員全員」が 50%を占め、研修を実施しようとする企業は、きちんと全社員に徹底しようという姿勢が伺われる。
- ⑩ LGBT 教育及び研修に関して希望は、教育に関しては 95%があったほうが良いと回答しており、昨年度の約 96%とあまり変化はない。また、職場での研修は約 87%があったほうが良いと回答しており、こちらも昨年度の約 86%とあまり変化はない。その内容としては、どちらについてもほぼ同じ傾向であり、「当事者を招いて経験談などを聞く」あるいは、「具体的な事例や現状について説明する」がそれぞれ 40%を超える。ただ、学校教育のほうは「当事者の経験談」を希望する割合が高く、企業研修としては「具体的な事例や現状についての説明」を希望する割合が高い。また、実施する時期や対象者については、学校教育では「小学生」が約 53%

と圧倒的に高く、次いで「中学生」が約 32%である。研修の対象者は約 88%が「社員全員」と回答している。これらはいずれも、現状とは大きく異なっている。教育実施の時期として、圧倒的に「小学生」の割合が高いのは、後述のように LGBT の多くの方が自身のセクシュアリティについて小学校時代に認識し始めていることから、思春期前に多様なセクシュアリティのあり方について知ることが必要であると考えられるからだろう。企業での研修についても、実施するからには全員に行わなければ意味がないということだろう。

- ⑪ 商品購入の基準として、その商品を製造している会社が LGBT に理解のある会社か否かを配慮するかという点に関しては、半数以上が LGBT へ理解がある企業か否かを考慮していないという傾向がみられ、昨年度と変化はない。また、LGBT 当事者か否かで比較してみると、商品購入に際して、LGBT 当事者である人の方が、LGBT 当事者でない人に比べて、LGBT に理解がある会社であるかどうかを考慮する傾向がみられた。
- ⑫ 職業選択の基準として、LGBT に理解のある会社か否かという点に関しては、「やや考える」が 35%であり、昨年度の約 37%を下回った。「多いに考える」も約 21%であり、昨年度の 25%を下回っている。とはいえ、会社を決める際にその企業が LGBT へ理解のある企業か否かを考える割合は 50%を超えている。また、LGBT 当事者か否かで比較してみると、LGBT 当事者は、60%近くが、職場選択の基準として、LGBT に理解がある会社であるかどうかを考慮している傾向がみられた。
- ⑬ 新宿 2 丁目の LGBT の方が多く集まるお店の利用については、LGBT 当事者の方の場合、「ほとんど利用したことがない」割合は約 42%であり、昨年度の約 40%とほぼ変化はない。一方、LGBT 当事者でない方の場合、81%が「ほとんど利用したことがない」と回答しており、昨年度の約 78%を下回った。LGBT 当事者の方の利用頻度に関しては、「年に 1,2 回」が 23.8%、「2,3 ヶ月に 1,2 回」が 15.6%、「月に 1,2 回以上」が 18.2%であり、これらの数値は昨年度と大きな変化はない。
- ⑭ 同性パートナーシップ証明書の利用については、「必ず利用する」約 14%、「たぶん利用する」約 45%と、利用への意向が 50%を超えており、どちらの選択肢も昨年度と比較するとそれぞれ 1%ずつ増加しているものの、大きな変化はない（ちなみに一昨年は、利用への意向が 70%を超えていた）。また、利用したい理由としては、「当然の権利である」が最も多く 57%、次いで「パートナーであることを公的機関から証明してもらうことがうれしい」約 41%、「職場で配偶者関連の福利厚生を受けたいから」と「パートナーや子どもの病院関連のことで困ったことがあったから」がそれぞれ約 39%と約 38%であった。後者二つの選択肢の割合は、昨年度と大きな変化はないが、「当然の権利である」については昨年度約 37%であったため、20%の増加となり、「権利」としての意識が高まっているといえるだろう。一方、利用しない理由としては、「必要性がない」が約 37%と最も割合が高く、次い

で「法律で保障される制度ではないから」が約 27%、「お金がかかるから」、「周囲に知られたくないから」がどちらも約 19%となっている（昨年度は「実効性がない」「結婚はしたくない」「これまでに困ったことがない」といった選択肢がそれぞれ 15%程度であった）。

- ⑮ 同性カップルに必要だと思う法的保障制度については、「異性間の法的婚姻制度と同じ同性間での法的婚姻制度」が約 60%と最も高く、次いで「法的婚姻ではなく、異性・同性にこだわらない事実婚の法的保障」が約 21%見られた。昨年度は、前者の割合が圧倒的に高く、約 71%であった。後者は諸外国の「ドメスティックパートナーシップ制度」（法的婚姻とは別の形で事実婚を法的に保障する制度）等を想定していると思われる。諸外国の多様なカップル関係のあり方が認識され、従来の異性を前提とした婚姻制度とは異なる形でのカップル関係の保障を求められるようになってきたといえるだろう。
- ⑯ 諸外国はもちろん、日本においても同性カップルが子育てを行うことは珍しいことではない。そこで、同性カップルが子どもの養育を行うことの是非について尋ねたところ、「よい」が約 53%と最も高い割合であった。次いで「あまりよくない」が約 22%であった。これらの意識の傾向は、LGBT 当事者である人と当事者でない人を比較しても差はみられず、同性カップルが子育てをすることについては、比較的肯定的に捉えられているといえる。
- ⑰ LGBT であるために日常生活で感じる不便、不自由は、「人付き合い」については「よくある」約 22%、「ときどきある」40%（昨年度は「よくある」約 23%、「ときどきある」約 46%）、「日常生活」については「よくある」約 16%、「ときどきある」約 35%（昨年度は「生活環境」という聞き方で「よくある」約 20%、「ときどきある」約 33%）、「社会保障制度」については、「よくある」約 21%、「ときどきある」約 29%（昨年度は「よくある」約 27%、「ときどきある」約 28%）、となっており、昨年度と比較して、あまり大きな変化はないといえる。
- ⑱ 回答者の年齢は 20 歳前後と 30 歳代後半、40 歳代後半が最も多い。20 歳前後が多い傾向は昨年度と変わりはないが、昨年度はそれ以外では 35 歳から 45 歳が最も多い傾向にあった。今年度は、さらに 40 歳代後半も多い傾向が見られた。また、昨年度は、渋谷区居住者が 36%と最も多く、都内からの来場者が 90%を占めていたが、今回渋谷区からの来場者は約 2%に過ぎず、渋谷区以外の東京 23 区、都下を合わせても、約 50%ほどである。今年度多く見られた地域は千葉、埼玉、神奈川、茨城などの東京近郊県であり、約 35%であった。こうした年齢層や参加者の居住者の変化は、レインボープライドの周知と裾野の広まりを示しているといえるだろう。
- ⑲ 家族構成は、「一人暮らし」約 38%と最も多く、次いで両親、パートナーとの同居であった。

⑳ LGBT 当事者の方に生涯をともにするパートナーができたときに望むことについてきいたところ、最も多かったのが「二人で落ち着いて暮らすことのできる住まいを探す」約 53%（昨年度は約 75%）、次いで、「両親や家族に二人の関係を理解してもらおう」約 43%（昨年度約 60%）、「友人に二人の関係を理解してもらおう」が約 41%（昨年度約 58%）であった。

㉑ LGBT 当事者の方にパートナーができたときに子どもをもちたいかと尋ねたところ、「パートナーの意向による」が約 35%と最も高く、次いで「子どもはもちたいと思わない」が約 33%であった。また、「子どもをもちたい（血のつながりのある子ども、もしくは養子など）」という割合は、約 32%であり、子どもをもちたくないという割合とはほぼ同じであった。「パートナーの意向による」という意識は必ずしも子どもをもつことを否定しているわけではないと考え、子どもをもつことに関しては積極的に考える当事者が多いことが伺われる。

㉒ 続いて子どもをもちたい理由ともちたくない理由について尋ねたところ、もちたい理由としては「親になってみたいから」が約 26%と最も高く、次いで「子育てをしてみたいから」が約 25%であった。もちたくない理由としては、「子どもをもつことは大変そうだから」が約 34%で最も高く、次いで「子育てはしたくないから」約 30%、「親になりたくないから」が約 23%であった。「親が LGBT であるとかわいそうだから」という割合は約 10%にすぎず、ここからも、前出の LGBT のカップルが子育てをすることは否定的に取られていないということが伺われる。

㉓ 来場者の約 60%が LGBT の方であるが、昨年度は来場者の 70%が LGBT の方であ

き

る。また、性的指向については、「ゲイ」の方が約 32%、「レズビアン」の方が約 20%、「バイセクシュアル・パンセクシュアル・ノンセクシュアル・アセクシュアル」の

方

は合わせて約 33%であった。性自認については、性別違和をもつ「トランスジェンダー」の方は約 49%であった。また、セクシュアリティ認識の時期は、「小学校高学年」が最も高く約 31%である、次いで「小学校低学年」が約 23%であった。中学生は約 15%であり、こうしたご自身の経験が、前出の「望む LGBT 教育の時期」として小学校を希望する方が多くみられたのだと推察される。

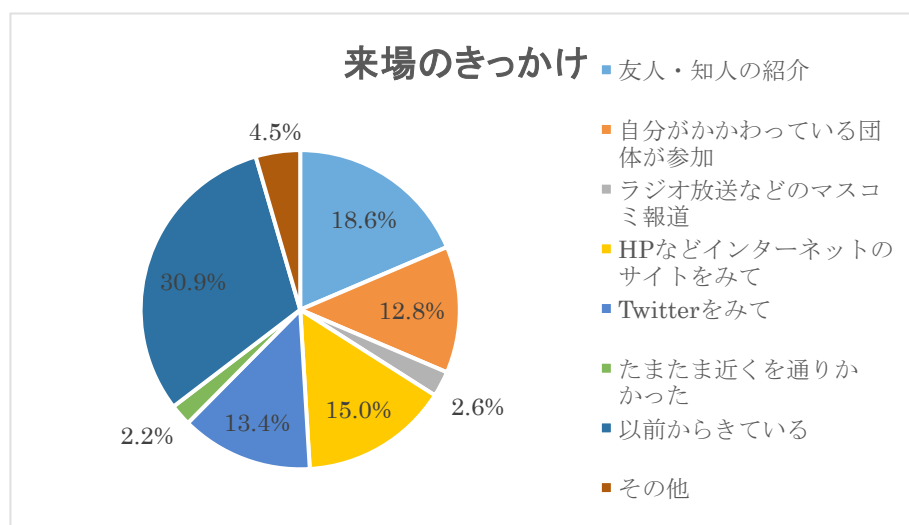
㉔ カミングアウトについては、一部の人にだけしている方が約 75%と最も多く（昨年度は約 79%）、カミングアウトしている相手は「学校時代の友人」が最も多くて約 67%（昨年度は約 64%）、次いで「母親」約 39%（昨年度は約 40%）、「パートナー」約 35%（昨年度は約 34%）、「兄弟姉妹」約 31%（昨年度も同じ）であった。親族

で

あっても「父親」は比較的低い傾向にあり、これらの傾向も昨年と同様である。

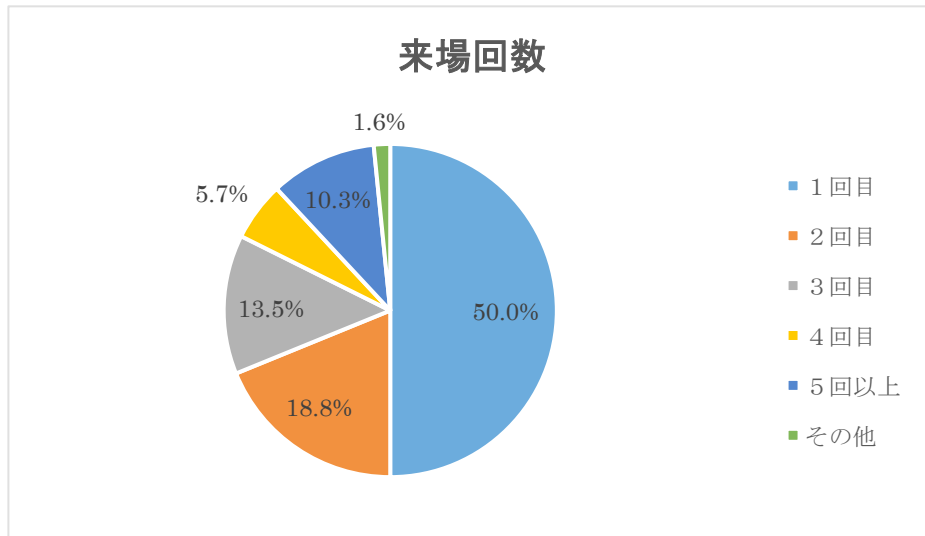
第1章 アンケート集計結果

Q1 今回の東京レインボープライド2017を知ったきっかけについて、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



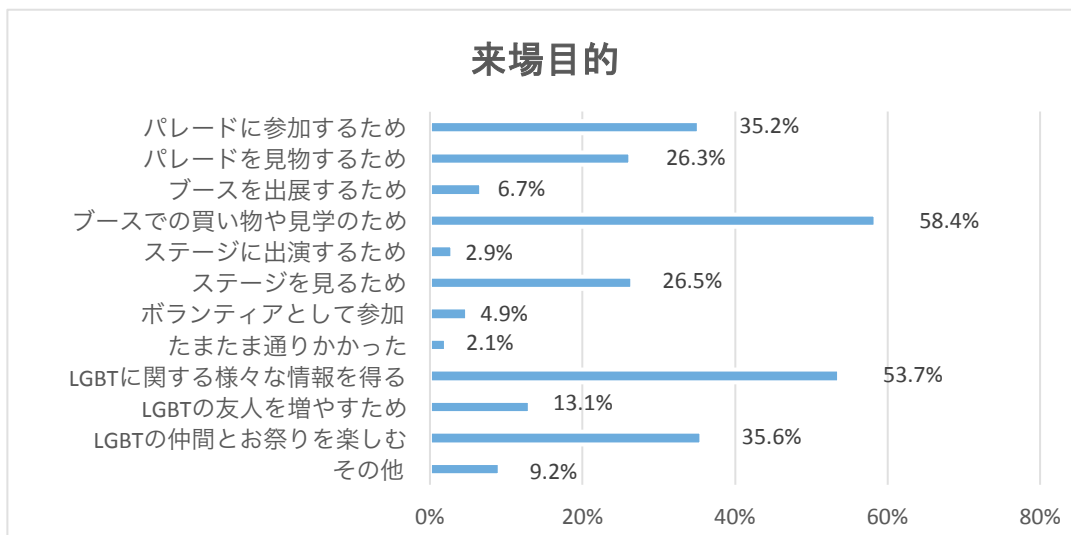
来場のきっかけで、「以前からきている」という回答が30.9%で最も多かった。それ以降の多い順に「友人・知人の紹介」という回答が18.6%、「HPなどインターネットのサイトを見て」という回答が15.0%、「Twitterをみて」が13.4%、「自分がかかわっている団体が参加」が12.8%という結果になった（「その他」の具体的内容は別途記載）。

Q2 東京レインボープライド(プライドパレード)への参加は今回で何回目ですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



今回の来場回数が「1回目」という人が50%と一番多かった。それ以降の多かった順に「2回目」で18.8%、「3回目」で13.5%、「5回目以上」で10.3%という結果になった（「その他」の具体的内容は別途記載）。

Q3 あなたがこの催しにいらっしゃった目的について、主なものを3つまで、下の選択肢の中から選んで（ ）内に番号を記入してください。

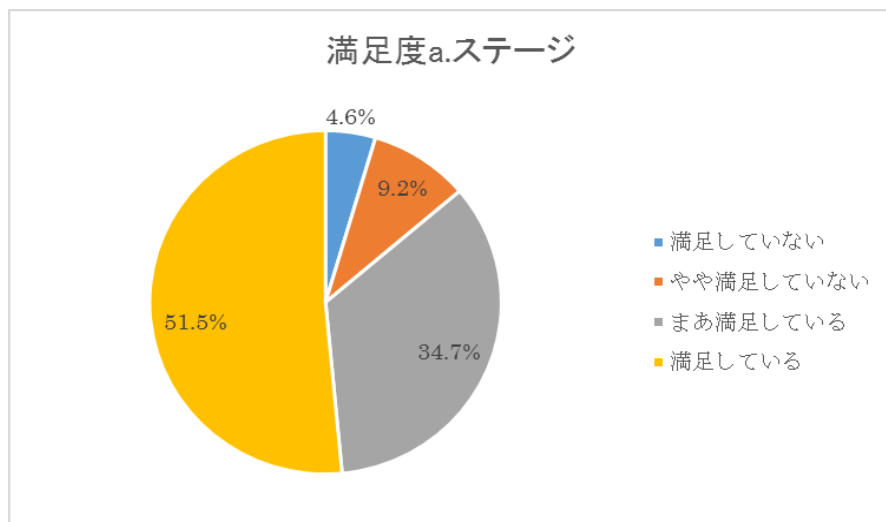


（複数回答であるため、合計が100%にはならない）

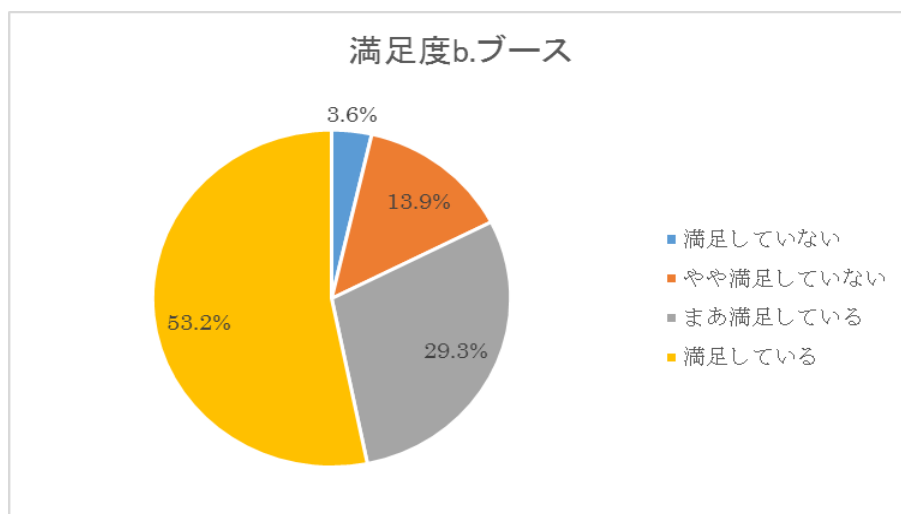
「ブースでの買い物や見学のため」が58.4%と一番多く、「LGBTに関する様々な情報を得る」も53.7%と50%を超えた。また、「たまたま通りかかった」が2.1%と偶然来たという人もいた（「その他」の具体的内容は別途記載）。

Q4 会場でのイベントにはどの程度満足しましたか。aからeに関して、あてはまる番号

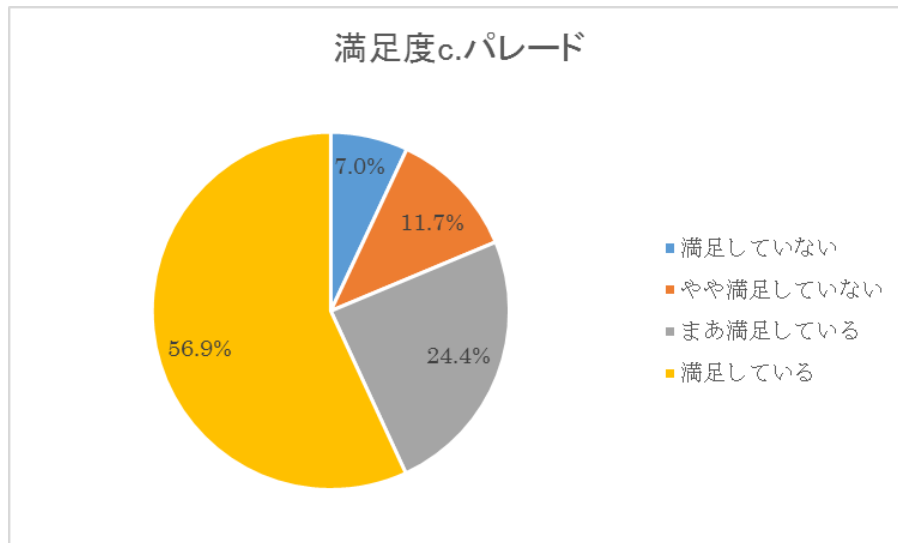
に 1つだけ○をつけてください。



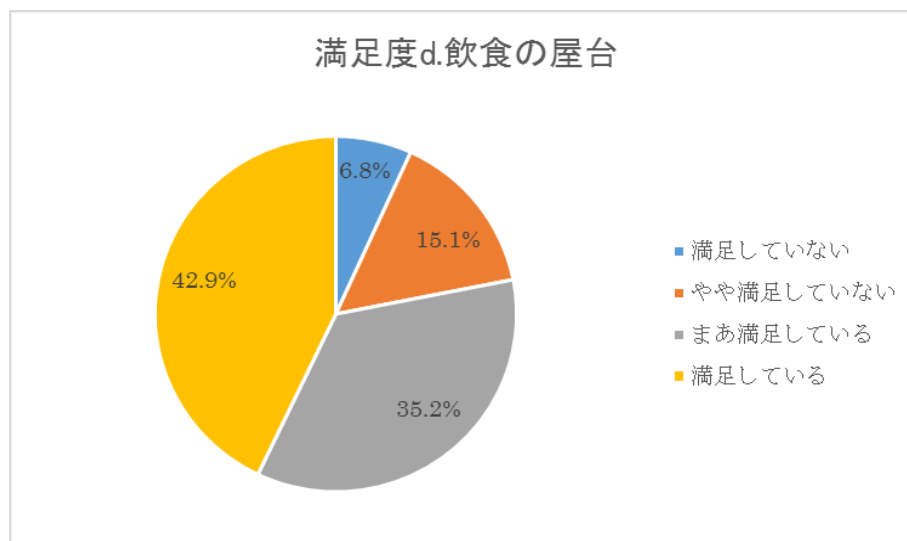
ステージについては、「体験・参加していない」人 35%を除いて集計したところ、「満足している」が 51.5%と最も高い割合であった。次いで「まあ満足している」が 34.7%であり、これらをあわせて約 86%の人が満足しているという結果だった。



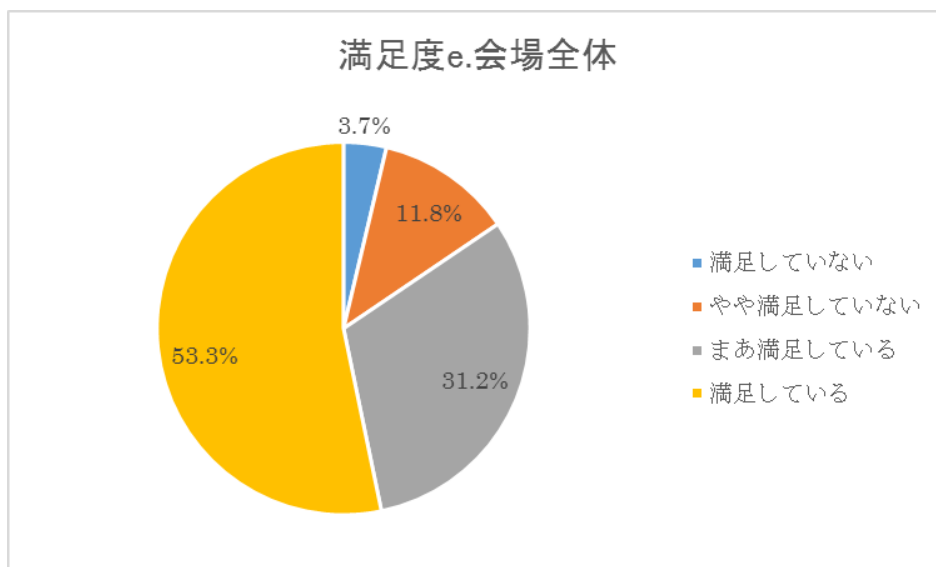
ブースについては、「体験・参加していない」人 5.6%を除いて集計したところ、「満足している」が 53.2%と最も高い割合であった。次いで、「まあ満足している」が 29.3%であり、これらをあわせて約 82%の人が満足しているという結果だった。



パレードについては、「体験・参加していない」人 39.1%を除いて集計したところ、「満足している」が 56.9%と最も高い割合であった。次いで、「まあ満足している」が 24.4%であり、これらをあわせて約 81%の人が満足しているという結果だった。

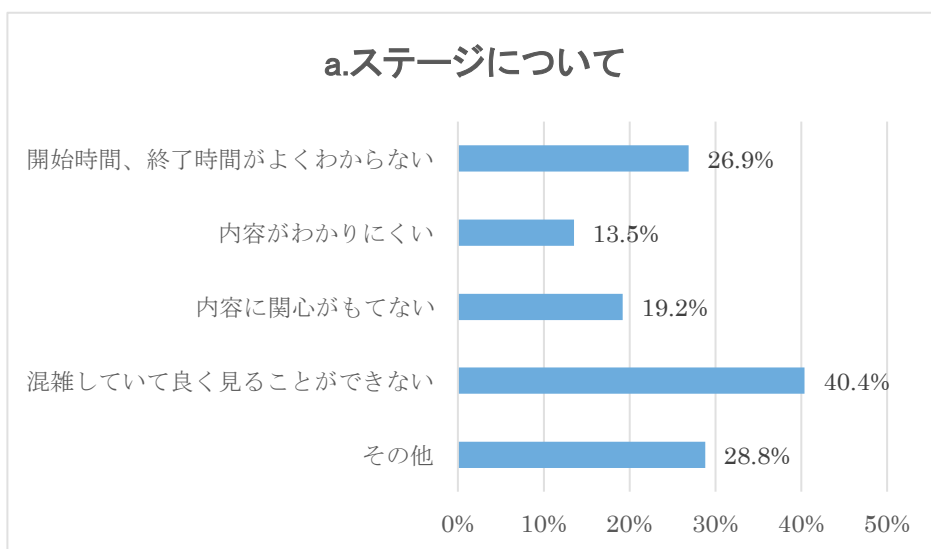


飲食店の屋台については、「体験・参加していない」人 17.9%を除いて集計したところ、「満足している」が 42.9%と最も高い割合であった。次いで、「まあ満足している」が 35.2%であった。これらをあわせると約 79%の人が満足しているという結果となるが、他の項目（ステージ、ブース、パレード）に比べると「満足している」という回答がやや低い傾向がみられる。



会場船体の満足度については、「体験・参加していない」人 5.2%を除いて集計したところ、「満足している」が 53.3%と最も高い割合であった。次いで、「まあ満足している」が 31.2%であり、あわせて約 84%の人が会場での催し物に満足したという結果となった。

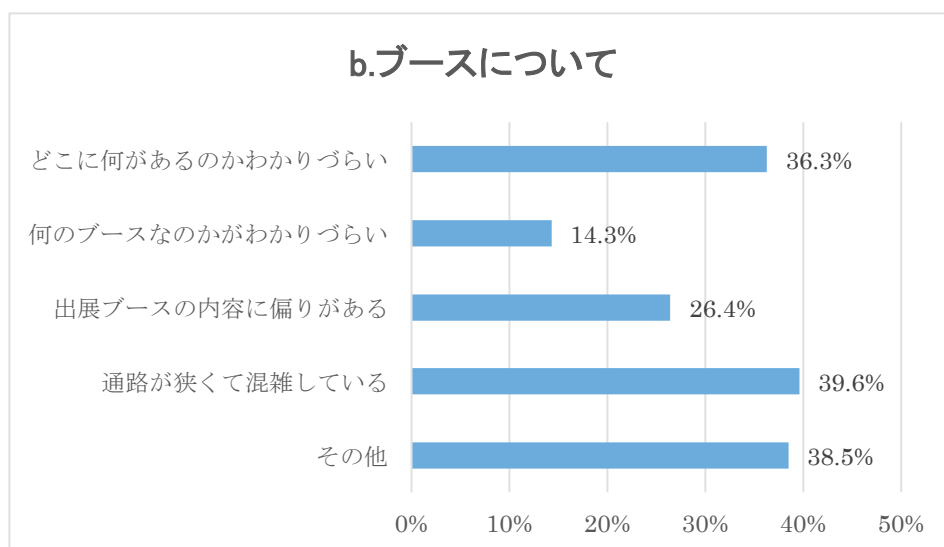
Q4SQ1 Q4で「1. 満足していない」、「2. やや満足していない」に○をつけた方に伺います。それぞれについてどのような点に満足されなかったのでしょうか。それぞれについてあてはまる番号に2つまで○をつけてください。



(複数回答であるため、合計して 100%にはならない)

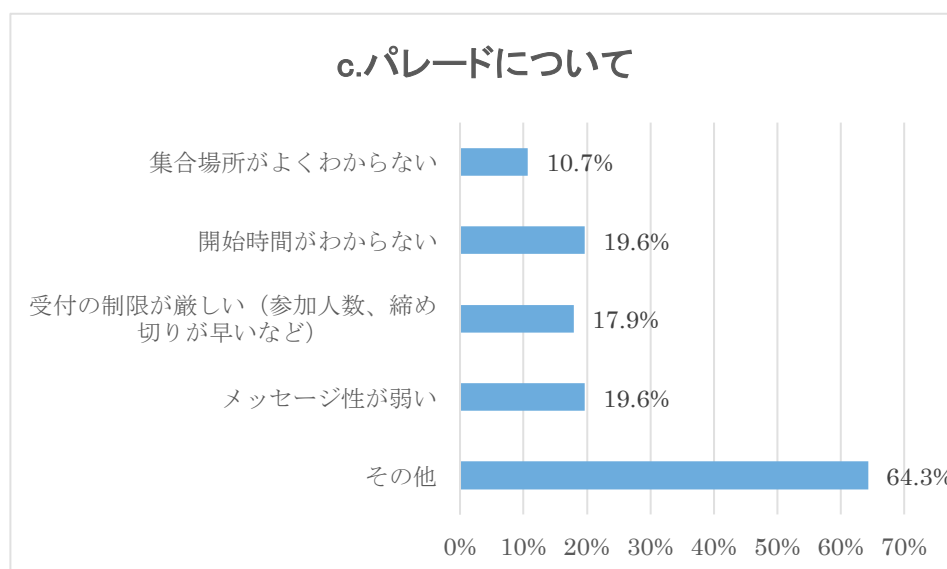
ステージについて満足しなかった理由としては、「混雑していてよく見ることができない」が 40.0%、「開始時間、終了時間がよくわからない」が 26.9%の順で多かった。「内容に関心がない」は 19.2%、「内容がわかりにくい」13.5%と、内容に関する項目は他と比べ

低い割合であった（「その他」の具体的内容は別途記載）。



（複数回答であるため、合計して 100%にはならない）

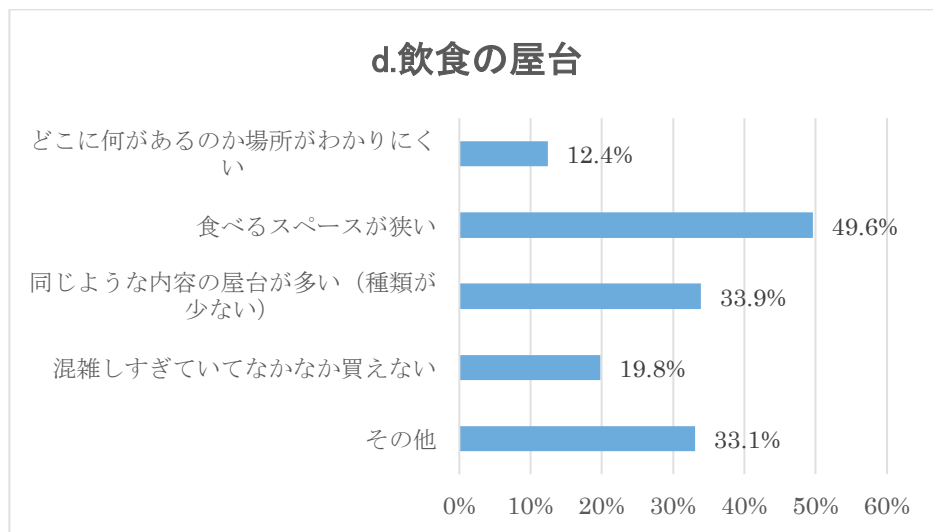
ブースについて満足しなかった理由としては、「通路が狭くて混雑している」が 39.6%、それに次いで「どこにあるのかわかりづらい」も 36.3%となった。「出展ブースの内容に偏りがある」26.4%、「何のブースなのかわかりづらい」14.3%と内容に関する不満は低い割合であった（「その他」の具体的内容は別途記載）。



（複数回答であるため、合計して 100%にはならない）

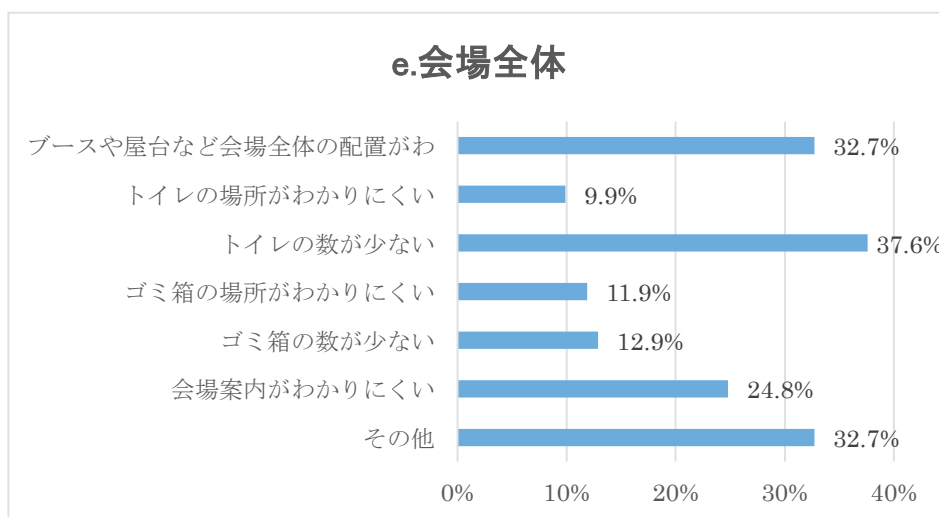
パレードについて満足しなかった理由としては、「開始時間がわからない」と「メッセージ性が弱い」がともに 19.6%、「受付の制限が厳しい（参加人数、締め切りが早いなど）」17.9%、「集合場所がよくわからない」10.7%と全体的に約 10%~20%ほどであったが、そ

の他と回答した人が 64.3%と高い割合であった（「その他」の具体的内容は別途記載）。



（複数回答であるため、合計して 100%にはならない）

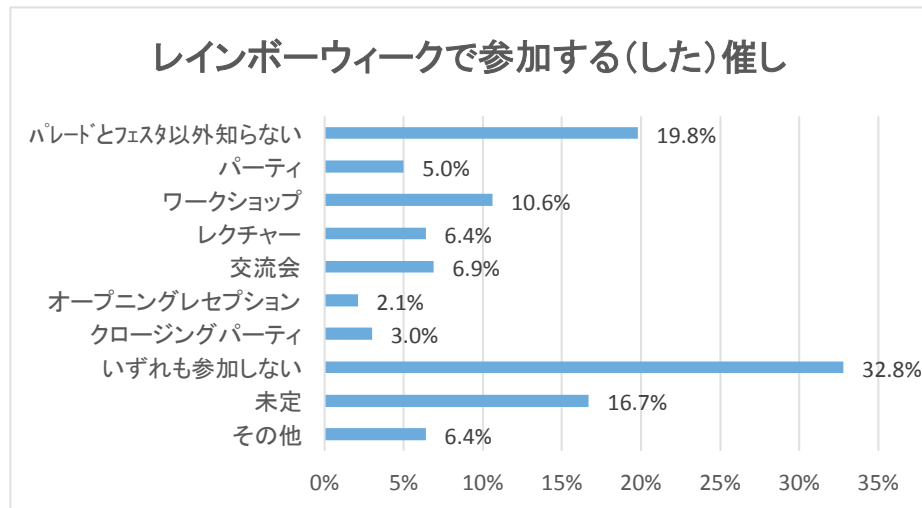
飲食店の屋台について満足しなかった理由としては、「食べるスペースが狭い」が 49.6%と約 50%であり、次いで「同じような内容の屋台が多い」33.9%、「その他」33.1%と約 30%以上となっていた。「混雑しすぎていてなかなか買えない」は 19.8%、「どこに何があるのか場所がわかりにくい」は 12.4%と低い割合であった（「その他」の具体的内容は別途記載）。



（複数回答であるため、合計して 100%にはならない）

会場全体について満足しなかった理由としては、「トイレの数が少ない」が 37.6%で最も多く、次いで「ブースや屋台など会場全体の配置がわかりにくい」が 32.7%、「会場案内がわかりにくい」24.8%となった。一方で「ゴミ箱の数が少ない」12.9%、「ゴミ箱の場所がわかりにくい」11.9%、「トイレの場所がわかりにくい」9.9%は、低い割合であった（「その他」の具体的内容は別途記載）。

Q5 レインボーウィークの期間は、この会場でのパレードとフェスタのほか、オープニングレセプションをはじめとしてパーティやワークショップなど様々な催しが行われています。あなたはこれらにも参加します（した）か。あてはまる番号にすべてに○をつけてください。



（複数回答であるため、合計して 100%にはならない）

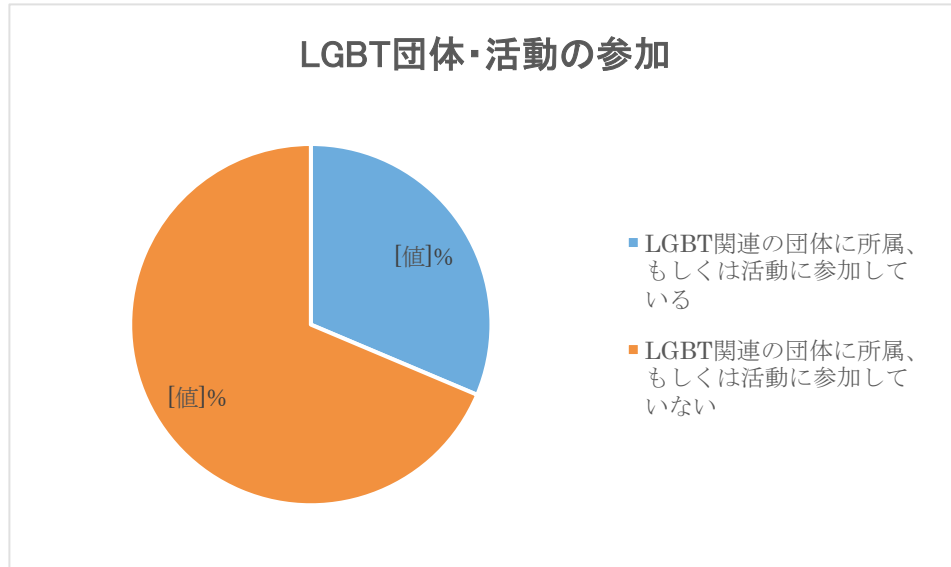
レインボーウィークの催しに「いずれも参加しない、予定はない」と回答している人数が最も高く、32.8%であった。次いで「パーティとフェスタ以外にそのような催しがあることは知らなかった(19.8%)」、「未定(16.7%)」、「ワークショップ(10.6%)」、「交流会(6.9%)」、「レクチャー(6.4%)」、「その他(6.4%)」、「パーティ(5.0%)」、「クロージングパーティ(3.0%)」、「オープニングレセプション(2.1%)」という結果であった。

参加や参加する予定がない、パーティとフェスタ以外にそのような催しを知らないという回答が非常に高かったのは、インターネット上でのアンケートもあったこと、会場ではフードメニューや化粧品などを展開する充実した屋台が数多くあったことから、イベントを重視した催しより、お祭りとして楽しむ人が多かったことが推測される。オープニングレセプションやクロージングパーティの参加者が非常に少ないことから、あくまで会場内で行われている催しや模擬店を楽しみに来ている参加者が多いのではないかと推測できる。

Q6 東京レインボープライドでは、レインボーウィークの企画・運営の他、渋谷区の LGBT を対象としたコミュニティスペース（＃渋谷にかける虹）の企画・運営なども行っています。「＃渋谷にかける虹」のような東京レインボープライドが年間を通じて運営を行う企画として、希望するものやアイデアがあれば、具体的な内容を記入してください。

（この設問は自由記述のため、具体的内容は別途記述）

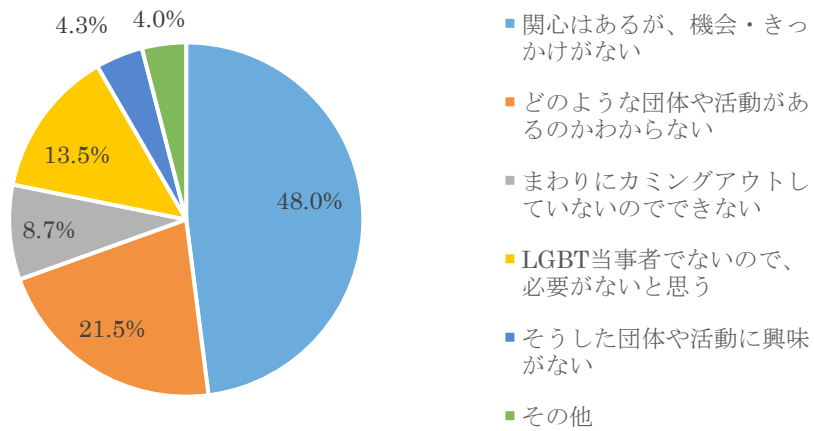
Q7 あなたは LGBT 関連の団体や活動に参加していますか？あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



LGBT 関連の団体に所属、もしくは活動に「参加していない」という回答が 67.2%と、全体の約7割を占めており、「参加している」という回答が 30.7%であった。

Q7SQ1 Q7で「2. LGBT 関連の活動はしていない」と回答された方に伺います。そうした活動をされていないのはなぜですか。もっともあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

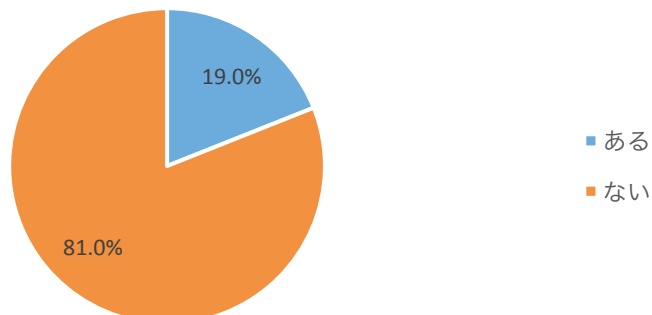
LGBT団体・活動に参加しない理由



Q7 においては、「LGBT 関連の活動はしていない」という回答が多かった。では、なぜ参加をしないのか Q7SQ1 にて理由について質問したところ、「関心はあるが、機会・きっかけがない」という回答が最も多く、48%と全体の約半分を占めている。次いで「どのような団体や活動があるのかわからない」(21.5%)、「まわりにカミングアウトしていないのでできない」(8.7%)、「LGBT 当事者でないので、必要がないと思う」(13.5%)、「そうした団体や活動に興味がない」(4.3%)、「その他」(4.0%)という結果であった。LGBT に関して興味がないわけではないが、機会やきっかけ、どんな団体や活動があるのかわからないということから、LGBT 関連の団体や活動の認知度が低いことが推測される。

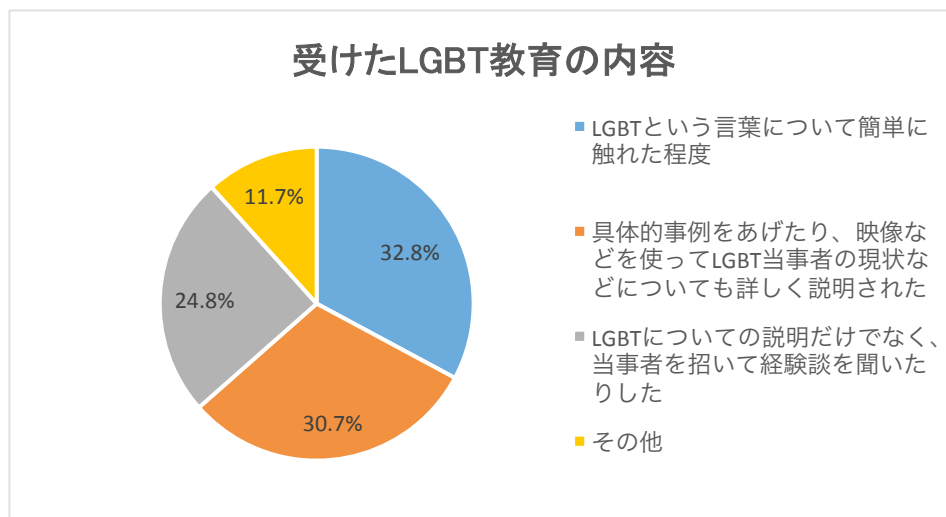
Q8 あなたは、これまで学校で LGBT に関する授業を行けたことがありますか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

LGBT教育の経験



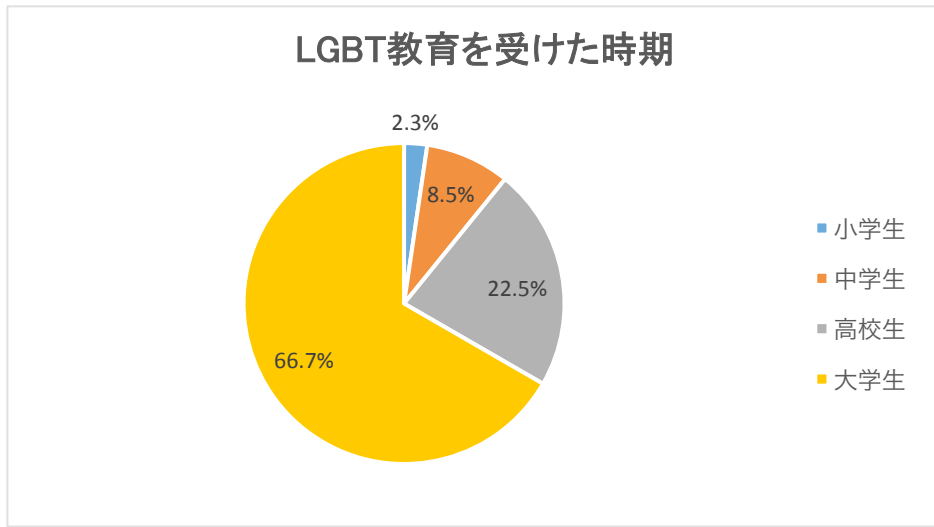
LGBT 教育の経験が「ある」という回答が 19.0%、「ない」という回答が 81.0%となった。LGBT 教育を受けたことがない人が 8 割を占めていることがうかがえる。

Q8SQ1 Q8 で「1. ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた授業はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。



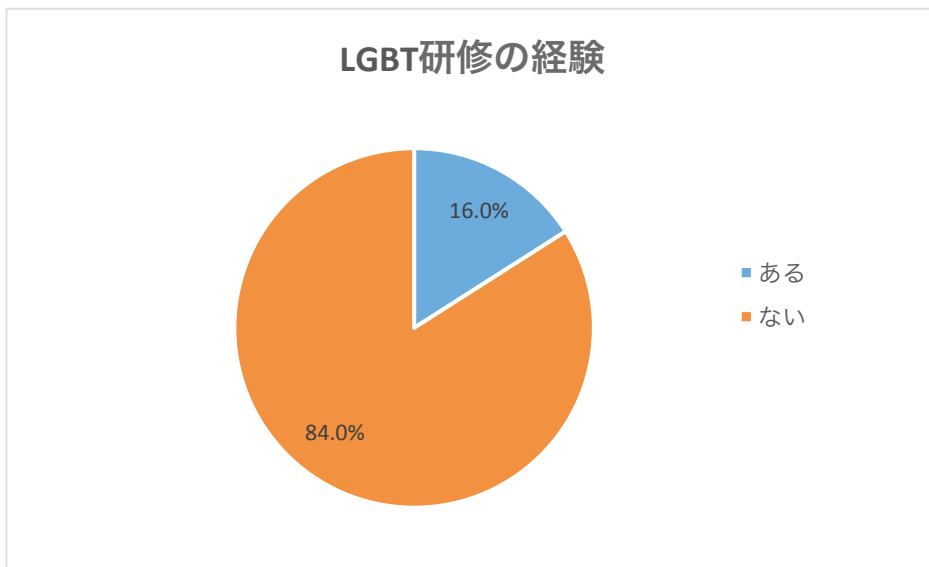
Q8 で「LGBT 教育の経験がある」と回答した人にその具体的な内容を尋ねたところ、「LGBT という言葉について簡単に触れた程度」が 32.8%と全体のおよそ 3 分の 1 を占めていた。また「具体的事例をあげたり、映像などを使って LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明された」も 30.7%とこちらも全体のおよそ 3 分の 1 を占めていた。「LGBT についての説明だけでなく、当事者を招いて経験談を聞いたりした」は 24.8%であった（「その他」の具体的内容は別途記載）。

Q8SQ2 Q8 で「1. ある」と回答された方に伺います。その授業を受けたのはいつですか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。



Q8 で「LGBT 教育の経験がある」と回答した人にその時期を聞いたところ、「大学生」で LGBT 教育を受けた割合が 66.7%と最も多かった。それに次いで多かったのは「高校生」で 22.5%であった。「中学生」は 8.5%、「小学生」では最も少ない 2.3%であった。

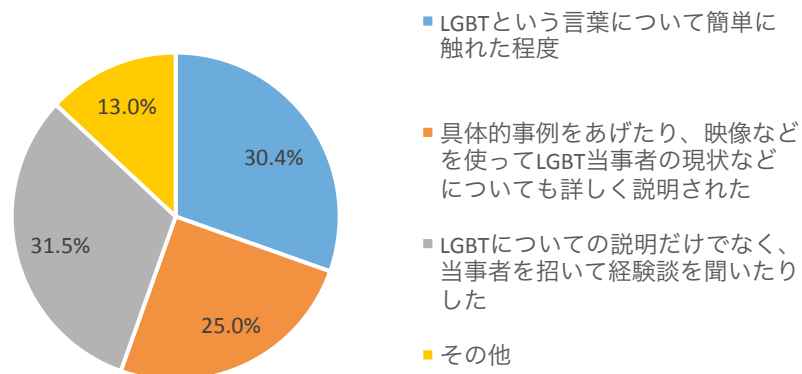
Q9 あなたは、これまでに職場で LGBT に関する研修を受けたことがありますか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。



職場における LGBT 研修の経験について「学生もしくは職場経験のない人」17.6%を除いて集計したところ、84%の人が「ない」と回答し、「ある」人は 16%だった。

Q9SQ1 Q9で「1. ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた研修はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

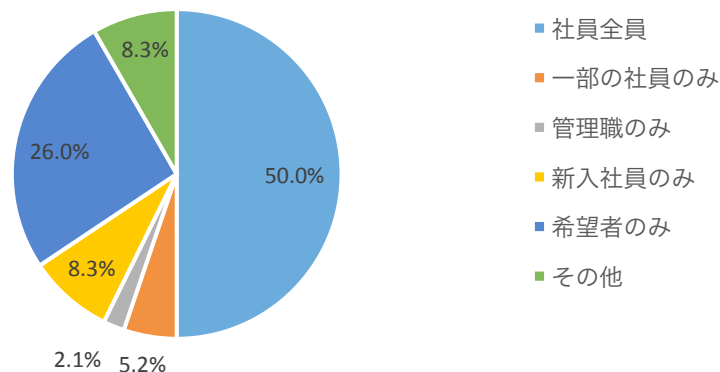
受けたLGBT研修の内容



Q9 において「LGBT 研修がある」と回答した人に、その具体的な内容を尋ねたところ、「LGBT という言葉について簡単に触れた程度」が 30.4%と全体のおよそ 3 分の 1 を占めていた。「具体的事例をあげたり、映像などを使って LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明された」も 25.0%と全体のおよそ 4 分の 1 を占めていた。「LGBT についての説明だけでなく、当事者を招いて経験談を聞いたりした」は 31.5%と全体のおよそ 3 分の 1 であった（「その他」の具体的内容は別途記載）。

Q9SQ2 Q9 で「1. ある」と回答された方に伺います。その研修の対象はどのようになっていましたか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

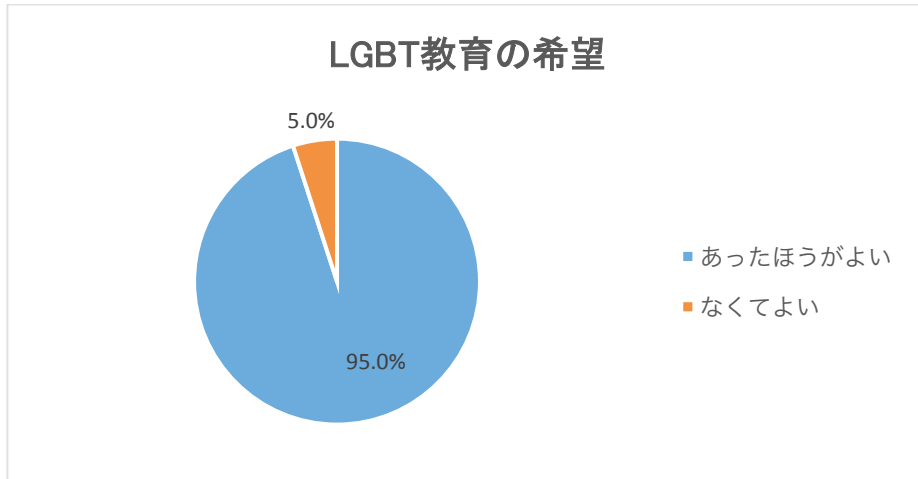
LGBT研修の対象者



Q9 において「LGBT 研修がある」と回答した人に、その対象者を尋ねたところ、「社員全員」が 50%と一番多かった。それ次いで多かったのは、「希望者のみ」が 26.0%であった。また、「新入社員のみ」が 8.3%、「一部の社員のみ」が 5.2%、「管理職のみ」が 2.1%

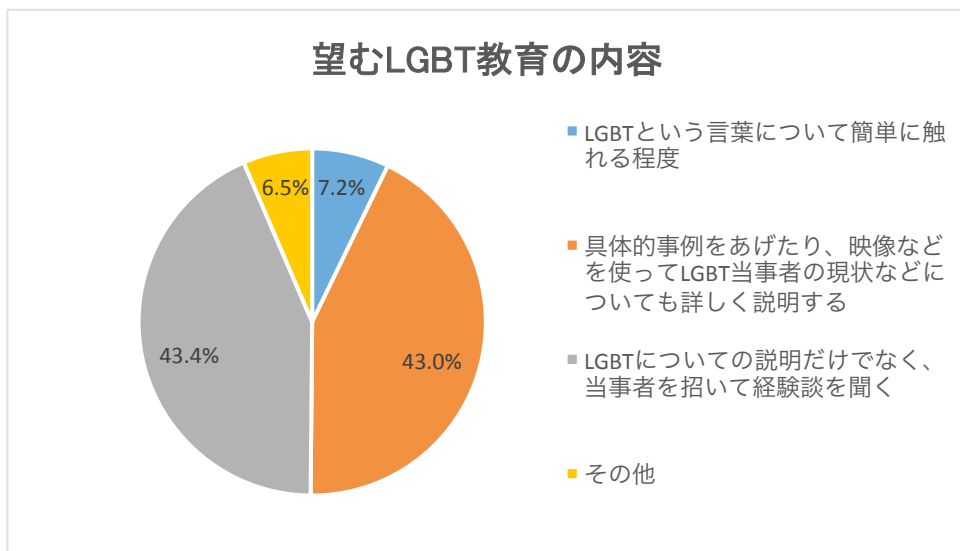
の結果となった（「その他」の具体的内容は別途記載）。

Q10 あなたは、学校で LGBT に関する授業があったほうがよいと考えますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。



「LGBT 教育」については 95.0%の人が「あったほうがよい」と回答し、多くが LGBT 教育を希望していることがわかった。

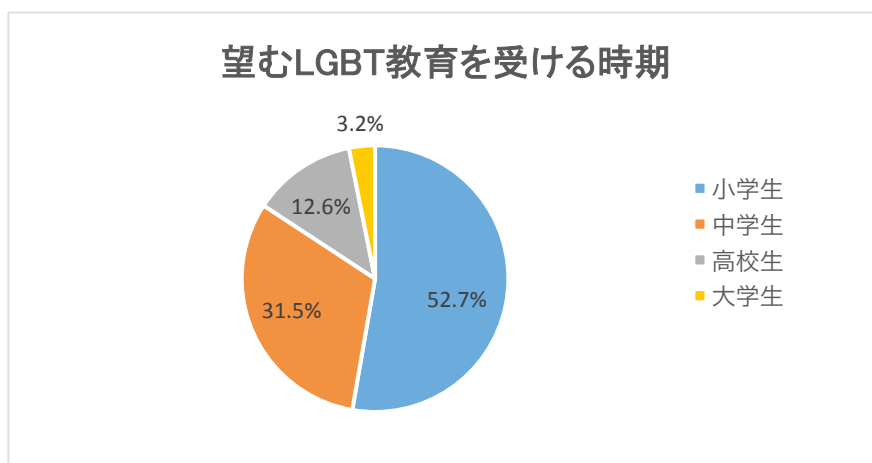
Q10SQ1 Q10で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。



Q10 において「LGBT 教育はあったほうがよい」と回答した人に、具体的な内容を尋ねたところ、「LGBT という言葉について簡単に触れる程度」は 7.2%と少なかった。一方で、「LGBT についての説明だけでなく、当事者を招いて経験談を聞く」が 43.4%と最も多く、

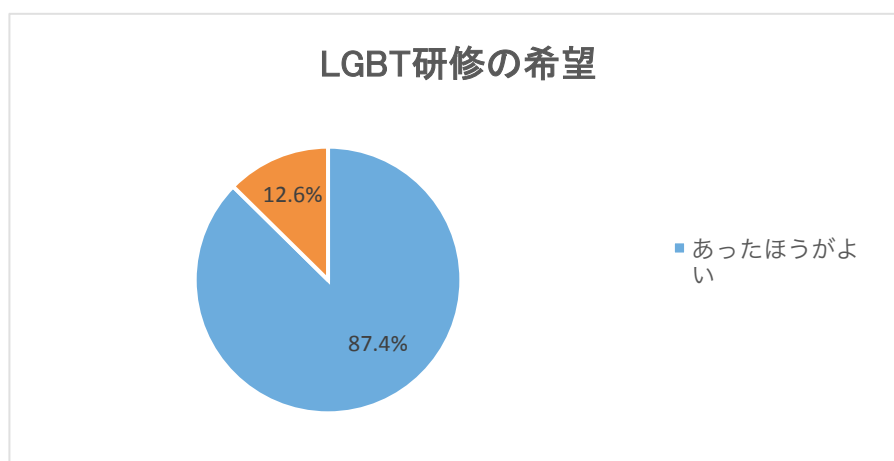
次いで、「具体的事例をあげたり、映像などを使って LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明する」が 43.0%とほぼ同じくらいの割合であった。多くの人が LGBT の現状や当事者の体験談を知る教育を望んでいるといえる（「その他」の具体的内容は別途記載）。

Q10SQ2 Q10で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。実施する時期はいつが良いと思いますか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。



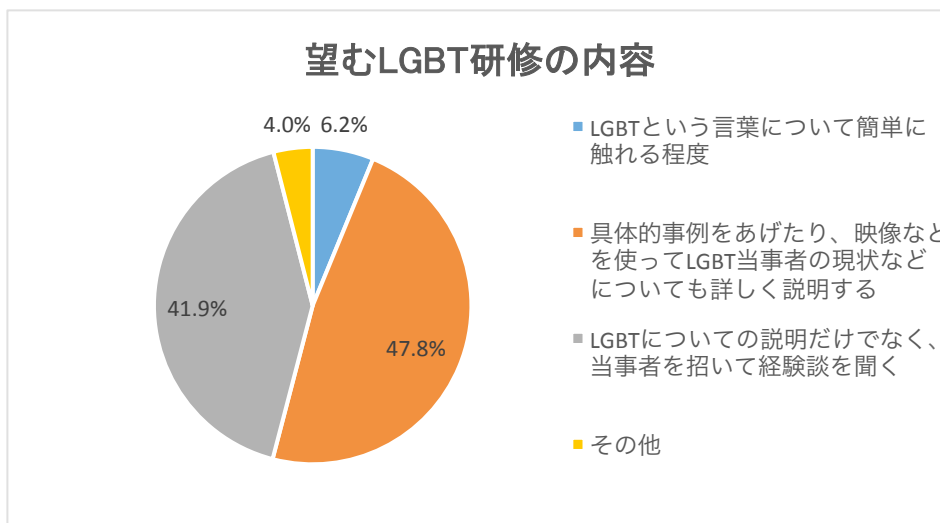
Q10 において「LGBT 教育はあったほうがよい」と回答した人に、その具体的な時期を尋ねたところ、52.7%の人が「小学生」と回答している。次いで、「中学生」が 31.5%、「高校生」が 12.6%、「大学生」が 3.2%という結果になった。多くの人が小学校という早い段階からの LGBT 教育を望んでいる。

Q11 あなたは、職場で LGBT に関する研修があったほうがよいと思いますか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。



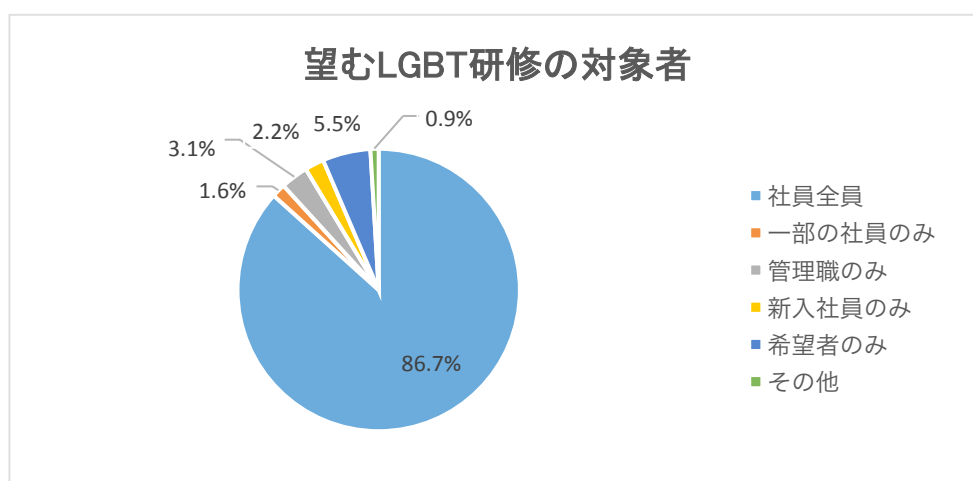
職場での LGBT 研修に関して、87.4%が「あったほうがよい」と回答し、多くの人が LGBT 研修を希望していることがわかった。

Q11SQ1 Q11で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



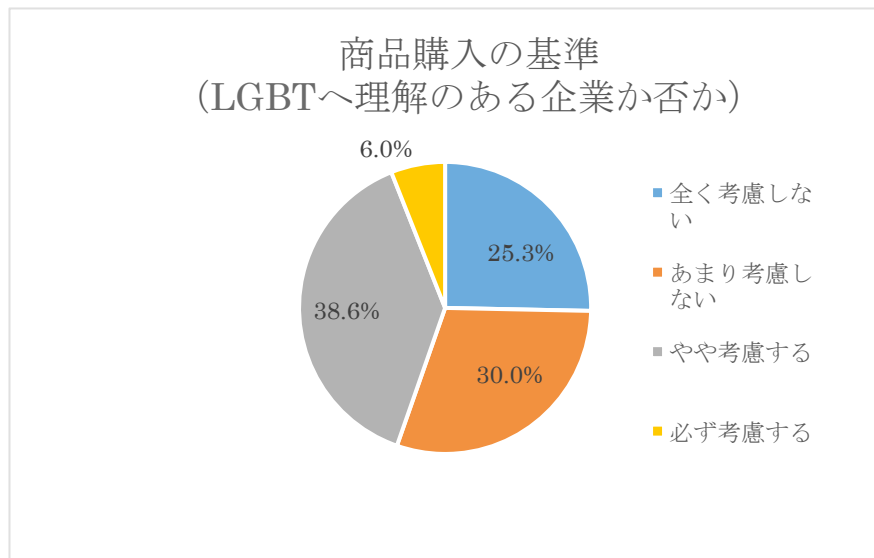
Q11で職場において「LGBT研修はあったほうがよい」と回答した人に対して、その具体的な内容について尋ねたところ、「LGBTという言葉について簡単に触れる程度」は6.2%と少なかった。一方で、「具体的事例をあげたり、映像などを使ってLGBT当事者の現状などについても詳しく説明する」が47.8%と最も多く、次いで「LGBTについての説明だけでなく、当事者を招いて経験談を聞く」も41.9%と多かった。多くの人がLGBTの現状や当事者の体験談を知る研修を望んでいるといえる（「その他」の具体的な内容は別途記載）。

Q11SQ2 Q11で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。実施する対象はどのような形が良いと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



Q11で職場において「LGBT研修はあったほうがよい」と回答した人に対して、その対象者を尋ねたところ、86.7%の人が「社員全員」と回答しており、90%近くがLGBT研修を全員に受けて欲しいと考えていることがわかった（「その他」の具体的な内容は別途記載）。

Q12 あなたは、商品を購入する際に、その商品を製造している会社が LGBT に理解のある会社かどうかを考慮して購入しますか（例えば、同じ種類の複数の商品から 1 つを選ぶ際に、多少価格が高くとも、LGBT へ理解を示している企業の製品を買うなど）。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

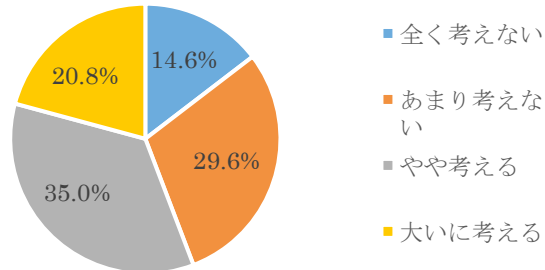


一番多い回答が「やや考慮する」で全体の 38.6%であった。しかし、「あまり考慮しない」が 30%、「全く考慮しない」が 25.3%であり、商品購入の際に半数以上が LGBT へ理解がある企業か否かを考慮していないということがわかった。

また、LGBT 当事者か否かで比較してみると、LGBT 当事者である人の場合、「全く考慮しない」が 23.4%、「あまり考慮しない」27.5%、「やや考慮する」41.6%、「必ず考慮する」7.4%、であり、LGBT 当事者でない人の場合は、「全く考慮しない」29.2%、「あまり考慮しない」32.7%、「やや考慮する」34.5%、「必ず考慮する」3.5%であった (χ^2 検定 $p < .05$)。この結果から、商品購入に際して、LGBT 当事者である人の方が、LGBT 当事者でない人に比べて、LGBT に理解がある会社であるかどうかを考慮する傾向があるといえる。

Q13 あなたは、仕事を選択する際に、LGBT に理解のある職場であるかどうかを選択の基準のひとつとして考えますか？現在学生の方は、今後の就職活動を想定して、また現在職業をお持ちの方はこれまでの職場を決めた際のことを思い出して、あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

会社の選択基準 (LGBTへ理解のある企業か否か)

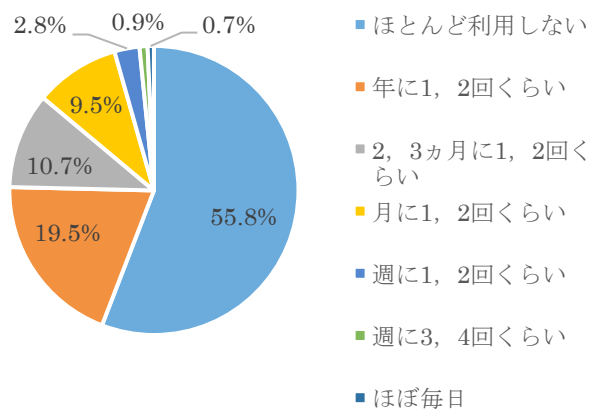


「やや考える」が 35.0%で一番多く、次いで、「あまり考えない」が 29.6%であったが、「大いに考える」という回答は 20.8%であり、会社を決める際にその企業が LGBT へ理解のある企業か否かを考える割合は 50%を超えていることがわかった。

また、LGBT 当事者か否かで比較してみると、LGBT 当事者である人の場合、「全く考えない」が 12.6%、「あまり考えない」27.4%、「やや考える」34.6%、「大いに考える」25.4%、であり、LGBT 当事者でない人の場合は、「全く考えない」19.2%、「あまり考えない」35.7%、「やや考える」31.3%、「大いに考える」13.8%であった (χ^2 検定 $p < .000$)。この結果から、LGBT 当事者の 60%近くが、職場選択の基準として、LGBT に理解がある会社であるかどうかを考慮していることがわかる。一方、当事者でない場合も、45%近くが考えるとしており、これは、本調査の対象者が LGBT の方への高い理解を示しているといえる。

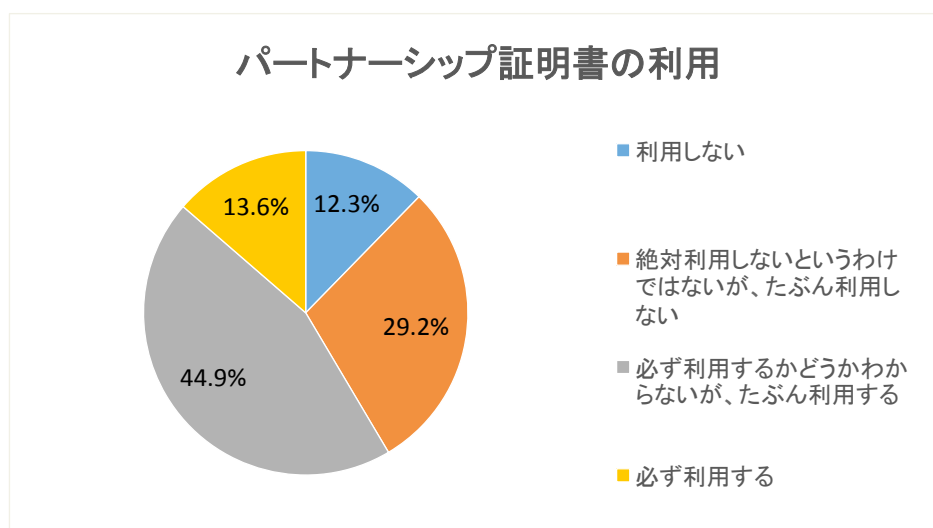
Q14 あなたは、新宿2丁目の LGBT が集まるお店をどの程度利用しますか？あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

新宿2丁目のお店の利用



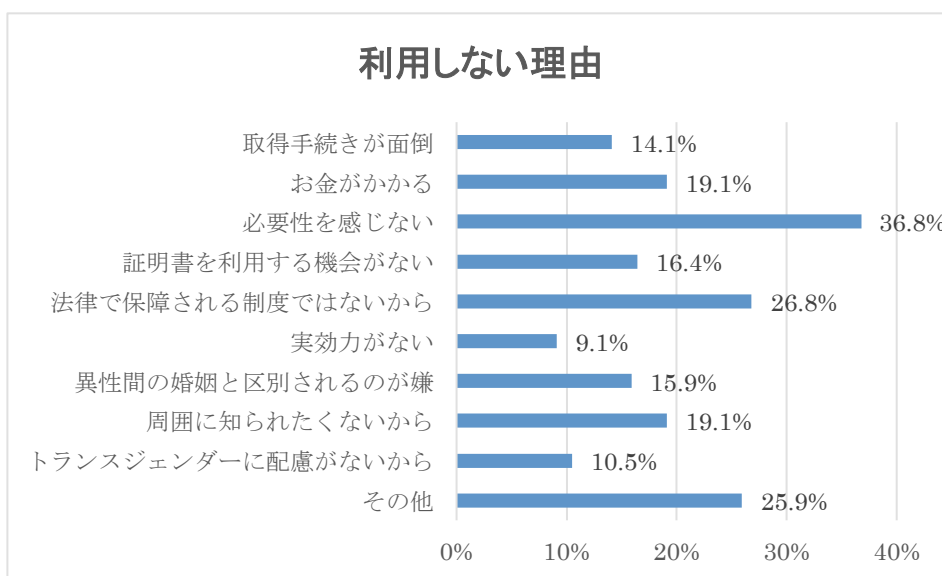
「ほとんど利用しない」が 55.8%と半数以上であり、利用する人の中では「年に 1, 2 回ぐらい」の利用者が 19.5%で一番多いといえる。しかし、新宿 2 丁目のお店の利用に関して、LGBT 当事者である人、LGBT 当事者でない人を比較してみたところ、LGBT 当事者である人の場合、「ほとんど利用しない」は、42.4%であり、「年に 1,2 回」が 23.8%、「2,3 ヶ月に 1,2 回」が 15.6%、「月に 1,2 回以上」が 18.2%となった。また、LGBT 当事者でない人の場合は、「ほとんど利用しない」が 81%、「年に 1,2 回」が 12.4%、「2,3 ヶ月に 1,2 回」が 1.8%、「月に 1,2 回以上」が 4.9%となった (χ^2 検定 $p < .000$)。つまり、LGBT 当事者でない人の場合、新宿 2 丁目のお店はほとんど利用していないということがわかった。

Q15 渋谷区では、同性パートナーシップ証明書が、世田谷区では、パートナーシップ宣誓書が発行されるようになりました。あなたがお住まいの自治体でもこのような証明書が発行されることになったら、利用したいと思いますか。あてはまる番号に 1 だけ○をつけてください。



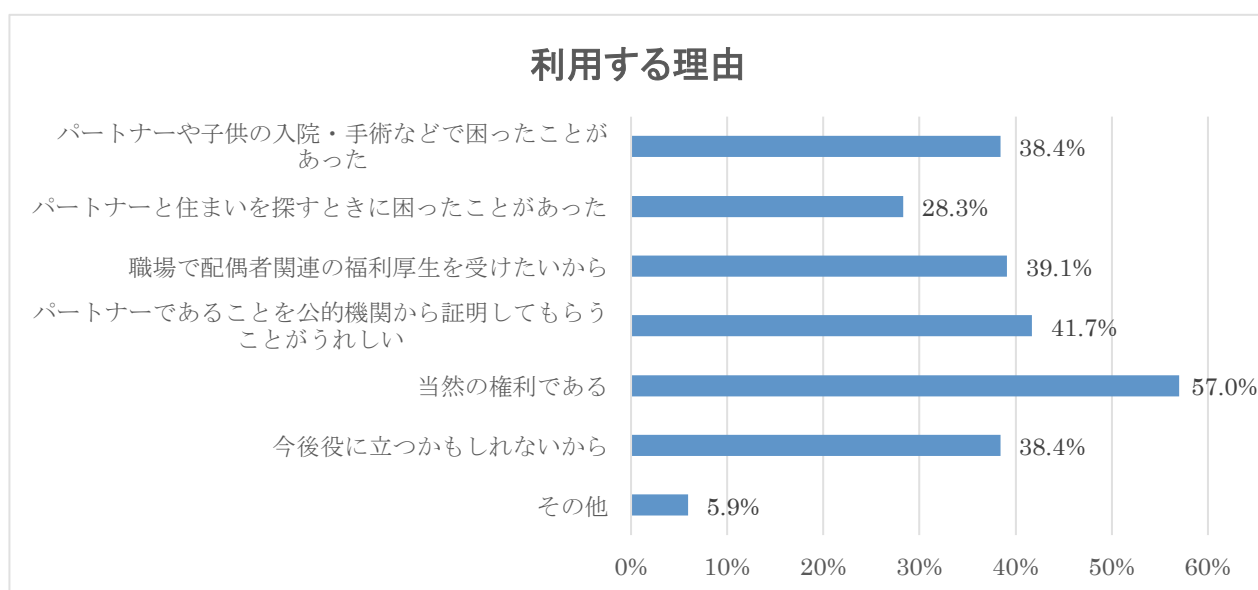
自分の住まいの自治体でパートナーシップ証明書や宣誓書が発行されることになったら利用したいと思うかという問いに対し、最も多かった回答が「たぶん利用する」の 44.9%、次に「たぶん利用しない」の 29.2%となり、「利用しない」、「必ず利用する」の割合はそれぞれ 12.3%と 13.6%であった。

Q15SQ1 Q15 で「1. 利用しない」「2. 絶対利用しないというわけではないが、たぶん利用しない」と回答された方に伺います。利用しないのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



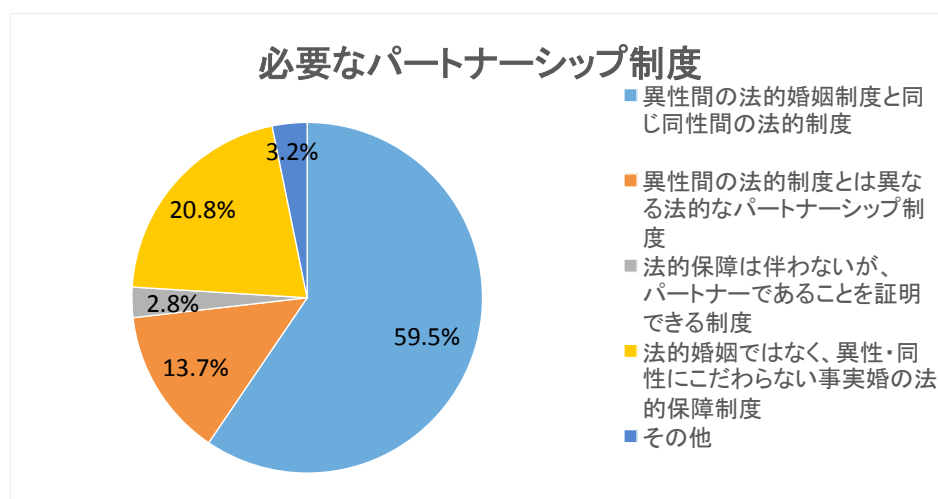
パートナーシップ証明書や宣誓書を利用しない理由についてきいたところ、最も多かった回答が「必要性を感じない」で36.8%、次に「法律で保障される制度ではないから」の26.8%、「周囲に知られたくない」、「お金がかかる」の19.1%の回答が順に多かった（「その他」の具体内容は別途記載）。

Q15SQ2 Q15で「3. 必ず利用するかどうかわからないが、多分利用する」「4. 必ず利用する」と回答した方に伺います。利用しようと思うのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



パートナーシップ証明書や宣誓書を利用する理由を聞いたところ、最も多かったのは「当然の権利である」の57.0%。次に41.7%で「パートナーであることを公的機関から証明してもらいたい」、39.1%で「職場で配偶者関連の福利厚生を受けたいからであった。（「その他」の具体内容は別途記載）

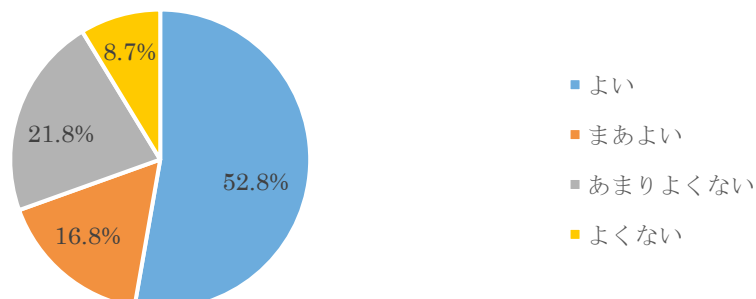
Q16 渋谷区の同性パートナーシップ証明書も世田谷区のパートナーシップ宣誓書も法的な保証制度ではありません。あなたは、日本においても、同性カップルに対する法的な保証制度が必要だと思いますか。必要だと思われる制度について、あてはまる番号 1つだけ○をつけてください。



必要だと思われる同性カップルに対する法的な保証制度は、圧倒的に多いのが「異性間の法的婚姻制度と同じ同性間の法的制度」で59.5%、次に「法的婚姻ではなく、異性、同性にこだわらない事実婚の法的保障制度」の20.8%となった。「法的保障は伴わないが、パートナーであることを証明できる」は2.8%と少数だった（「その他」の具体内容は別途記載）。

Q17 あなたは同性カップルが親として子どもを養育することについて、どのように思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

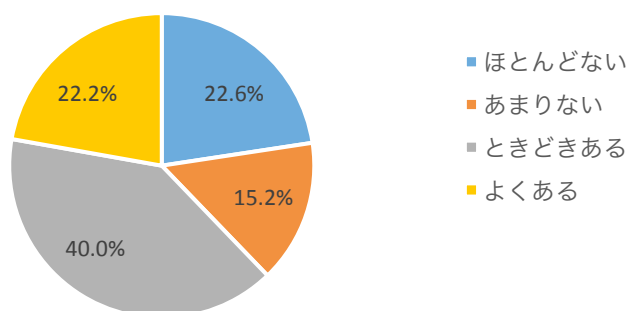
同性カップルが子育てをすることの是非



同性カップルが子育てをすることについて、「よい」が 52.8%、「まあよい」が 16.8%であり、「あまりよくない」は 21.8%、「よくない」は 8.7%であり、約 70%がよいと思っている傾向がみられた。

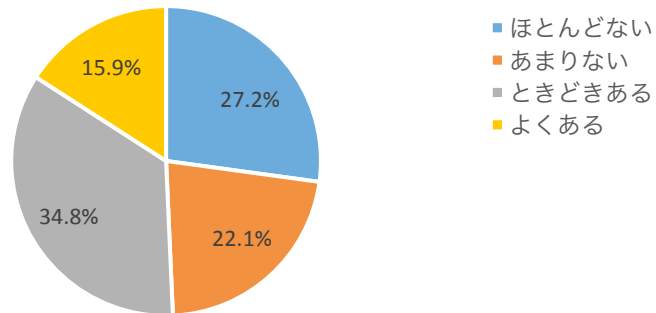
Q18 あなたは日常生活において、LGBTであるからということで不便、不自由を感じることはありますか？ a から c についてあてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

a:LGBTであることに対する不便・不自由 (人付き合い)



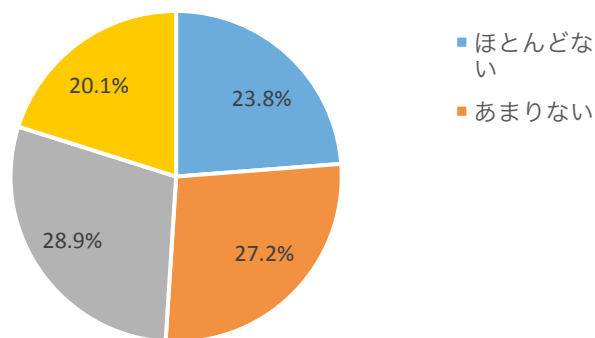
LGBT 当事者でない人 (30.9%) を除いて集計したところ、LGBT であることでの人付き合いでの不便・不自由は、「よくある」が 22.2%、「ときどきある」が 40.0%、「あまりない」が 15.2%、「ほとんどない」が 22.6%という結果になった。およそ 6 割の人が人付き合いにおいて不便・不自由を感じていることがわかった。

b: LGBTであることに対する不便・不自由
(日常生活)



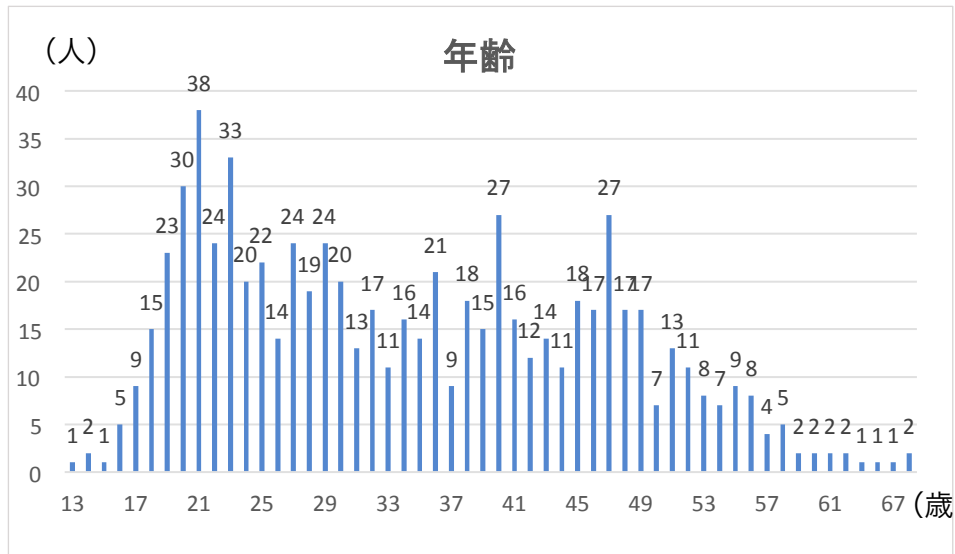
LGBT 当事者でない人 (31.1%) を除いて集計したところ、LGBT であることでの日常生活での不便・不自由は、「よくある」が 15.9%、「ときどきある」が 34.8%、「あまりない」が 22.1%、「ほとんどない」が 27.2%という結果になった。人付き合いよりは割合が低くなっているものの、5割以上の人々が、日常生活に不便・不自由を感じていることがわかった。

c: LGBTであることに対する不便・不自由
(様々な保障制度)



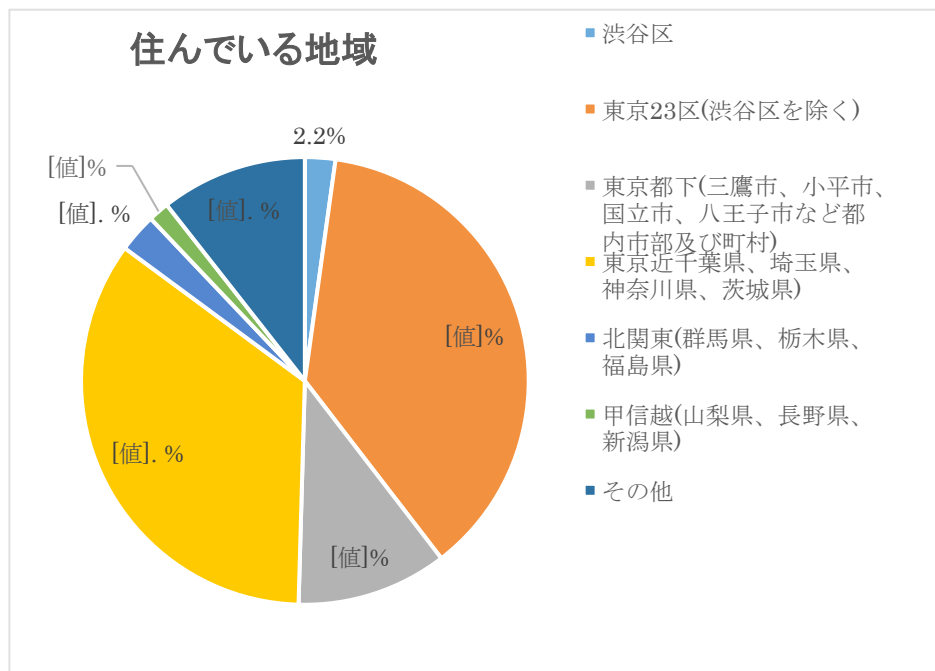
LGBT 当事者でない人 (31.3%) を除いて集計したところ、LGBT であることでの様々な保障制度での不便・不自由は、「よくある」が 20.1%、「ときどきある」が 28.9%、「あまりない」が 27.2%、「ほとんどない」が 23.8%という結果になった。日常生活よりは割合が低くなっているものの、5割弱の人が様々な保障制度に不便・不自由を感じていることがわかった。

Q19 あなたは現在おいくつですか。あなたの年齢を（ ）に数字で記入してください。



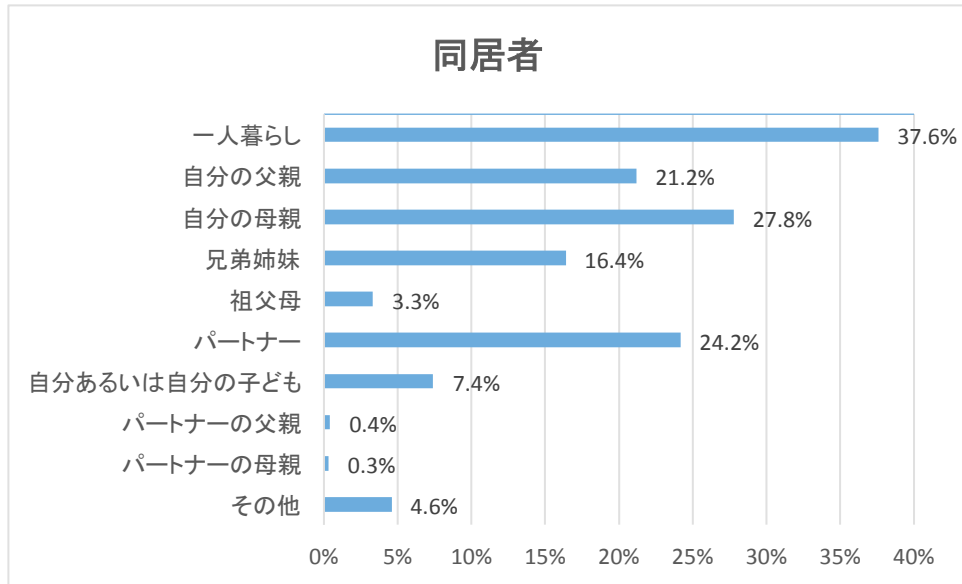
最も多かったのは、「21歳」で38人（5.3%）であり、20歳代から40歳代に集中しているが、特に20歳代が多く見られる。最少年齢は、「13歳」、最高年齢は「67歳」であった。

Q20 あなたのお住まいはどちらですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。



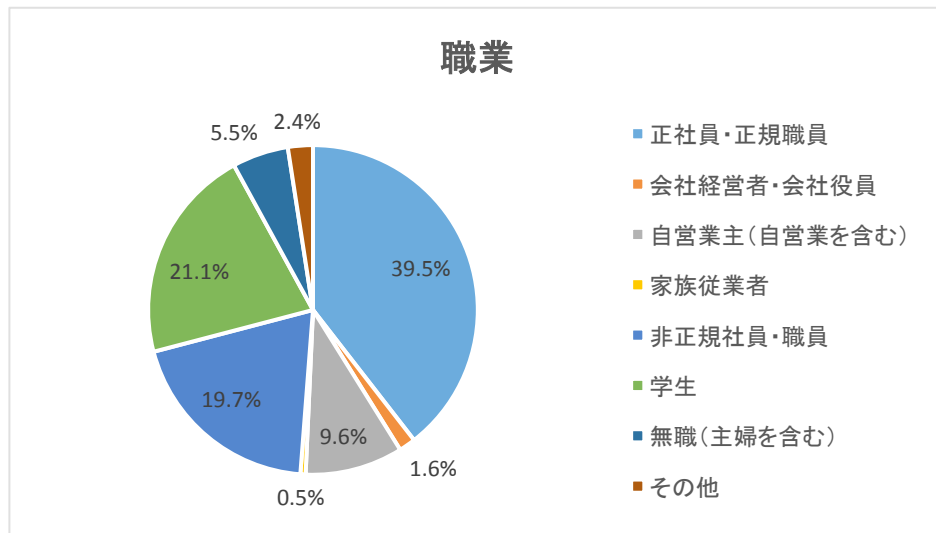
住んでいる地域について、「東京23区内」の人は、37.4%、「東京近郊県（千葉県、埼玉県、神奈川県、茨城県）」の人は34.7%と、東京及び関東圏に住んでいる人が多いという傾向が見られた。

Q21 あなたはどなたと暮らしていらっしゃいますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



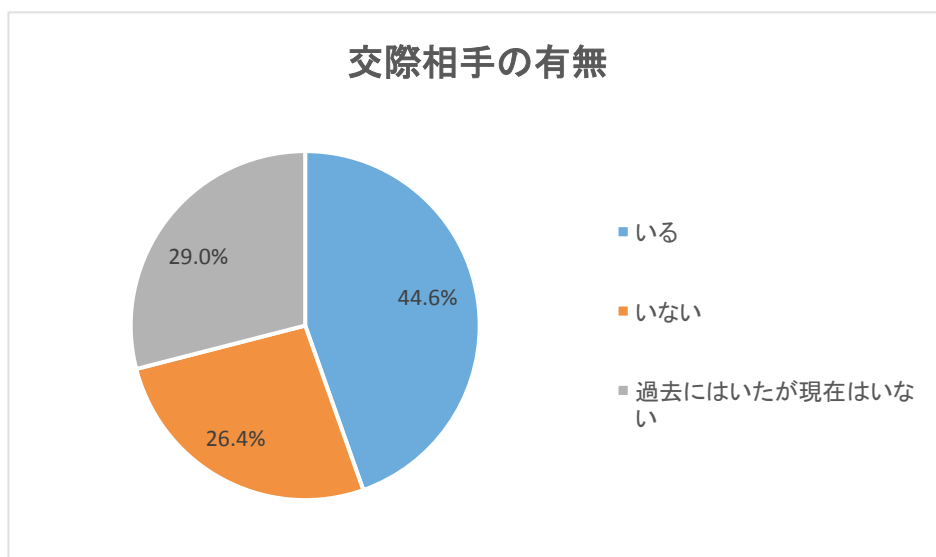
最も多かったのは、「一人暮らし」が 37.6%、続いて、「自分の母親」が 27.8%であった。三番目に多かったのは、「パートナー」で 24.2%となった。

Q22 あなたのご職業について伺います。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。



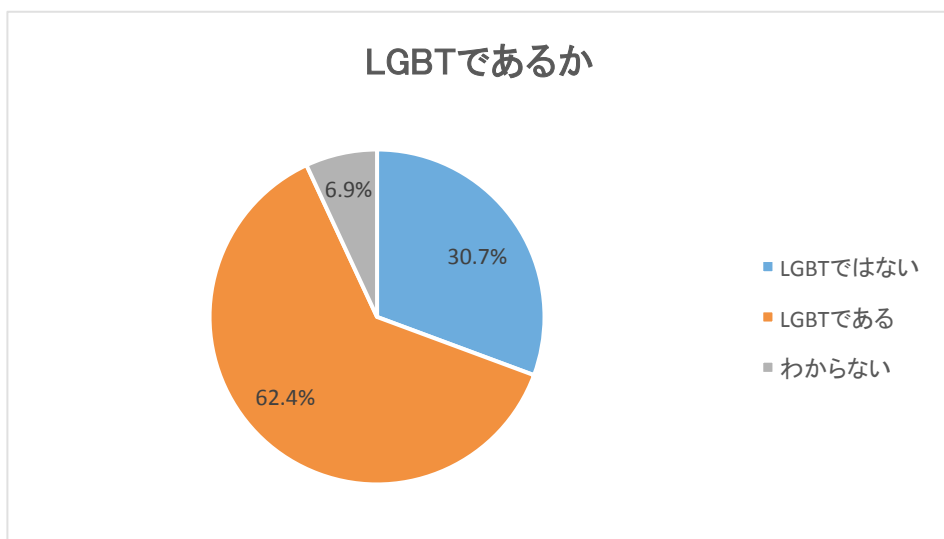
全体の約 39.5%が「正社員・正規職員」であることが分かった。また正社員に次いで「学生」が 21.1%、「非正規社員・職員」が 19.7%を占めており、学生や非正規の社員も多いことが分かる。

Q23 あなたは、現在お付き合いされている方はいますか。あてはまる番号に 1 だけ○をつけてください。



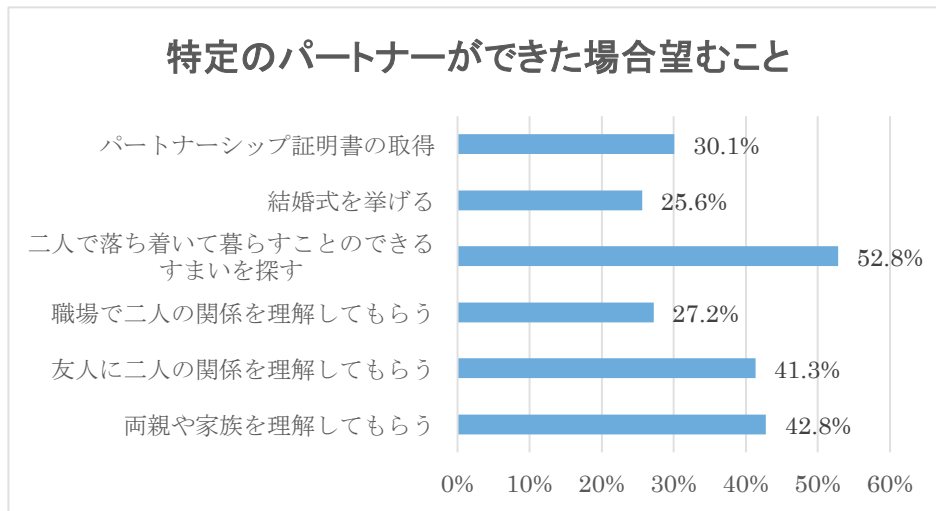
交際相手が「いる」と答えた人が約 43%、「いない」と答えた人が約 25%となっており、交際相手が「いる」と答えた人のほうが多かった。また、「過去にはいたが現在はいない」と答えた人も約 28%おり、交際経験のある人が全体の 70%を占めていることが分かった。

Q24 あなたのセクシュアリティについて伺います。あてはまる番号に 1 だけ○をつけてください。



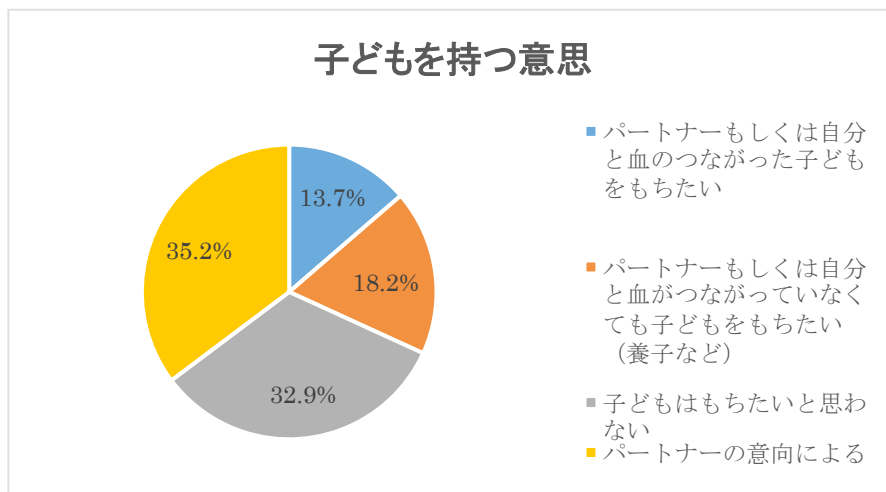
LGBT であると答えた人が全体の 62.4%を占めており、来場者の半数以上が LGBT であるということが分かった。また、LGBT ではないと答えた人も全体の 30.1%を占めており、当事者ではない人も東京レインボープライドに多く参加していることが分かる。

Q25 生涯をともに歩んでいこうと思う特定のパートナーの方ができた場合、あなたは、どのようなことを望みますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



特定のパートナーができた場合望むことについて、最も多かったのは「二人で落ち着いて暮らすことのできるすまいを探す」が52.8%、次に「両親や家族に理解してもらう」が42.8%、「友人に二人の関係を理解してもらう」が41.3%と多い結果となった。

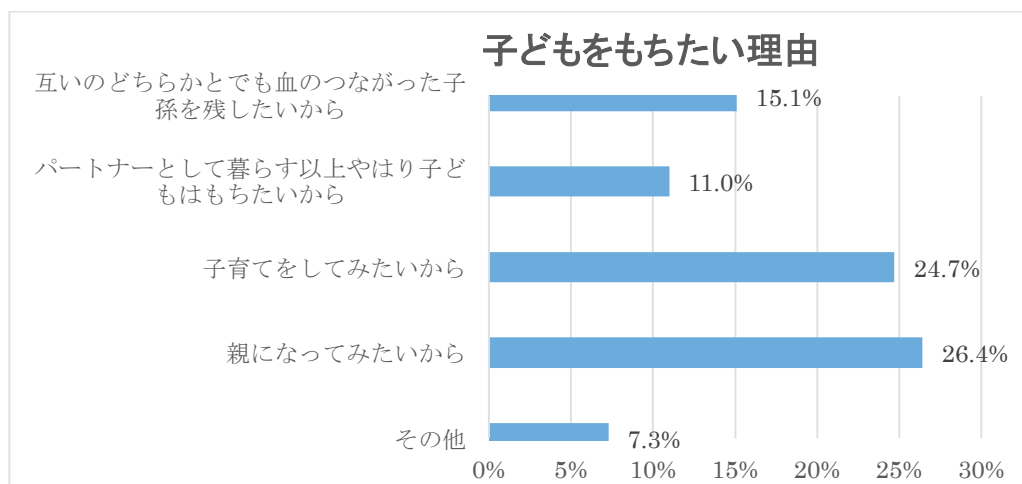
Q26 生涯をともに歩んでいこうと思う特定のパートナーの方ができた場合、あなたは、パートナーの方と子どもをもちたいですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



最も多い回答は「パートナーの意向による」が35.2%、次に「子どもはもちたいと思わない」が32.9%と高い。血のつながりを問わず「子どもをもちたい」という回答は約30%にとどまる結果となった。

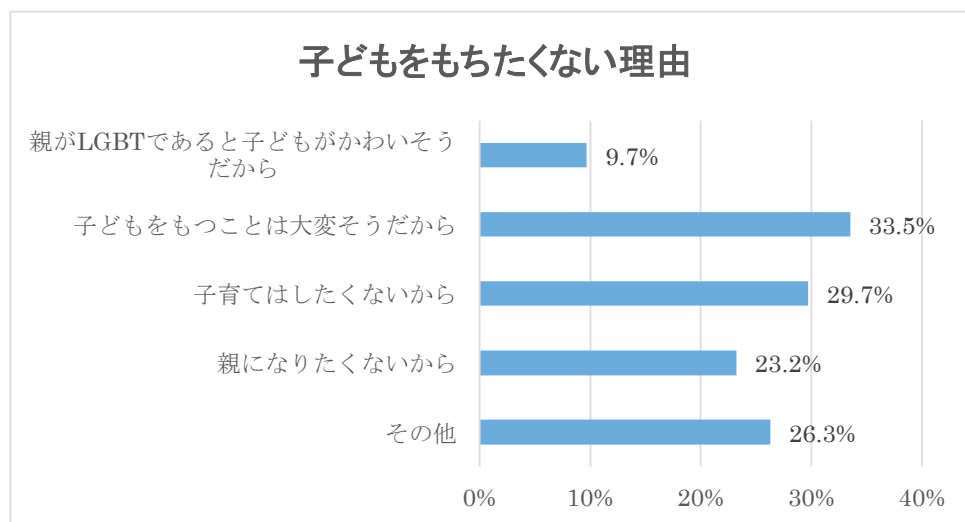
Q26SQ1 Q26で「1. パートナーもしくは自分と血のつながった子どもを持ちたい」、「2.

パートナーもしくは自分と血がつながっていても子どもを持ちたい（養子など）」と回答された方に伺います。それはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



多かったのは、「親になってみたいから」が26.4%、「子育てをしてみたいから」が24.7%と約50%を占めている。「互いのどちらかとも血のつながった子孫を残したいから」が15.1%、「パートナーとして暮らす以上やはり子供はもちたいから」が11.0%と低い割合になった（「その他」の具体的内容は別途記載）。

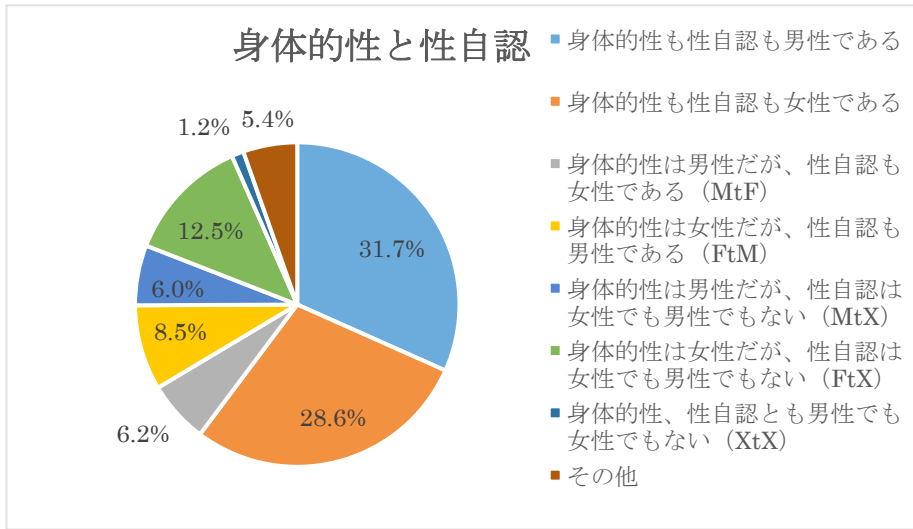
Q26SQ2 Q26で「3. 子どもはもちたいと思わない」と回答された方に伺います。それはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



最も多かったのは、「子どもをもつことは大変そうだから」が33.5%であった。次に「子育てはしたくないから」が29.7%、「親になりたくないから」が23.2%と高い。「親がLGBTであると子どもがかわいそうだから」は9.7%と少数であった（「その他」の具体的内容は別途記載）。

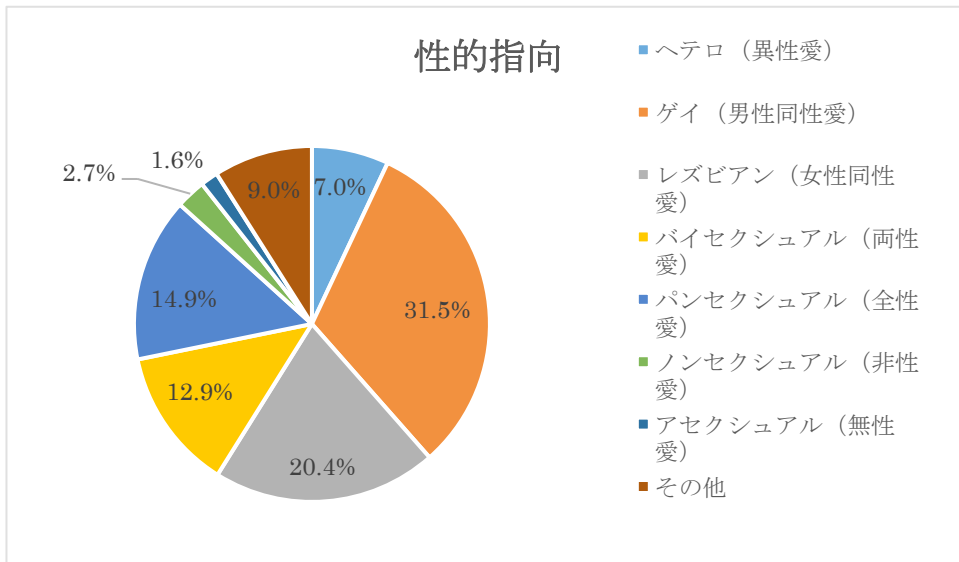
Q27 あなたの身体的性と性自認について伺います。当てはまる番号に1つだけ○をつけて

ください。



「身体的性も性自認も男性である」人は 31.7%、「身体的性も性自認も女性である」人は 28.6%であり、全体の約 60%が性別違和を持たない人であった。また、MtF である人は、6.2%、FtM である人は 8.5%、MtX である人は 6.0%、FtX である人は 12.5%であり、性別違和を持つ人は全体の 30%強であった（その他の具体的内容は別途記載）。

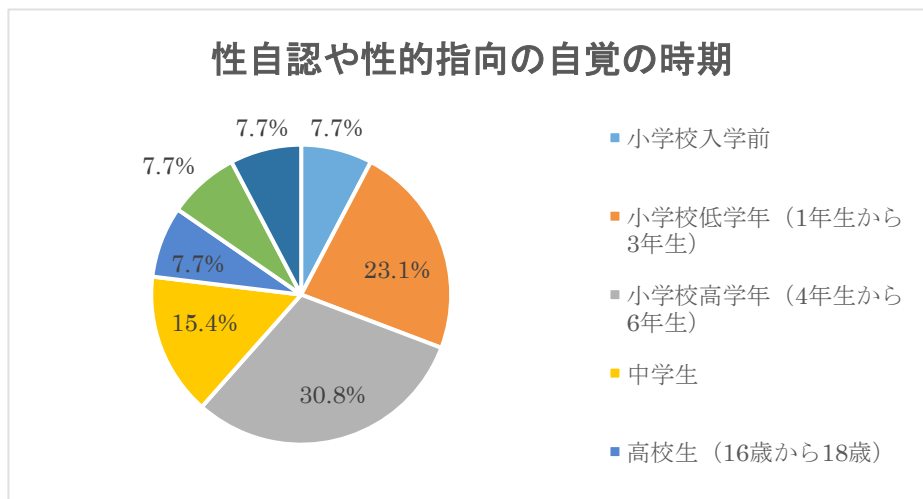
Q28 あなたの性的指向についてお伺いします。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。



性的指向に関しては、「ヘテロ」である人が 7.0%、「ゲイ」である人が 31.5%、「レズビアン」である人が 20.4%、「バイセクシュアル」である人が 12.9%、「パンセクシュアル」である人が 14.9%、「ノンセクシュアル」である人が 2.7%、「アセクシュアル」である人が

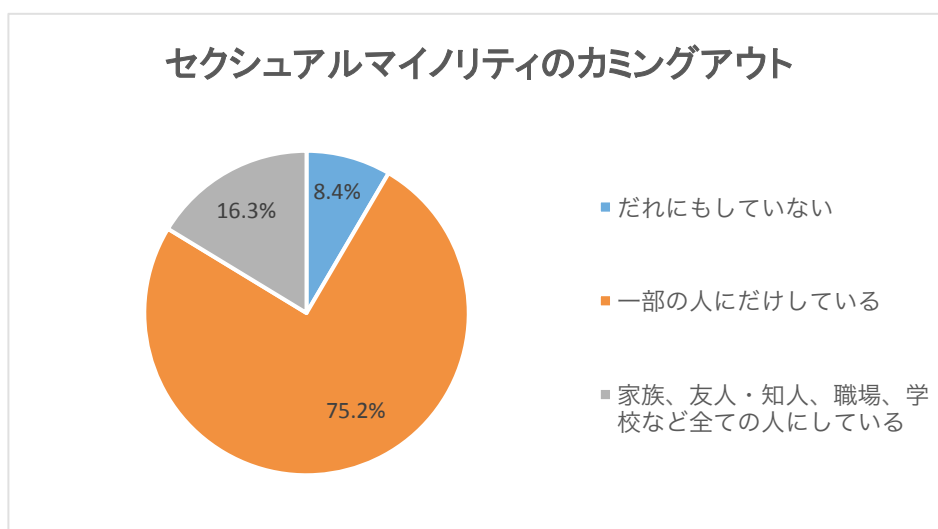
1.6%であった。この項目は LGBT である人だけが回答しているため、「ヘテロ」と回答している人は、性別違和をもつトランスジェンダーの方であると思われる。

Q29 あなたがご自身の性自認や性的指向について自覚されたのはいつごろですか。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。



「小学校低学年（1年生から3年生）」は23.1%、「小学校高学年（4年生から6年生）」は30.8%と小学校の時期に性自認や性的指向の自覚をする人が多いことが分かる（「その他」の具体的内容は別途記載）。

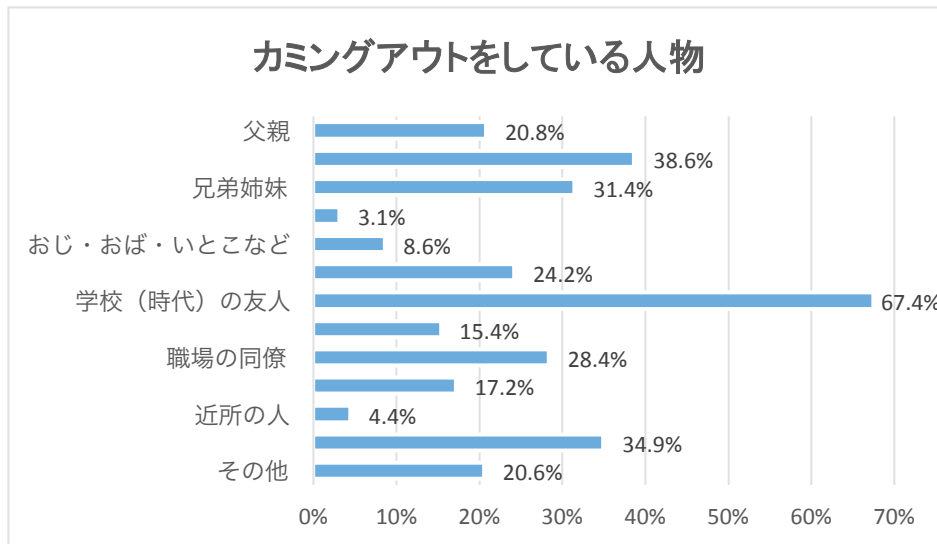
Q30 あなたはご自身が LGBT(セクシュアルマイノリティ)であることを周りの方にカムアウトしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。



「一部の人だけにしている」人が75.2%と一番多かった。一方で、「だれにもしていない」

人が 8.4%いることもわかる。

Q30SQ1 Q30 で「2. 一部の人のみにしている」と回答された方に伺います。具体的にはどなたにカミングアウトされていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



「学校(時代)の友人」が 67.4%と一番多かった。それ以降の多かった順は、「母親」が 38.6%、「パートナー」が 34.9%、「兄弟姉妹」が 31.4%となった。一方で低かった順は、「祖父母」が 3.1%、「近所の人」が 4.4%、「おじ・おば・いとこなど」が 8.6%だった。結果より、身近で親しい人ほどカミングアウトをしやすいということがわかる（「その他」の具体的内容は別途記載）。

第 2 章 アンケート項目の「その他」の具体的内容と自由記述

Q1 今回の東京レインボープライド 2017 を知ったきっかけについて、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

① 情報媒体から

・ Weibo

・ フェイスブックでみて

・ 専修大学の冊子「SHOW」でのレインボープライド副代表の水無瀬さんのインタビュー

② 人を通じて

・ 家族が参加している

・ LGBT 当事者の方の告知

・ LGBT のゆるカフェ

・ 教会の司祭

③ イベント内容で

・ 自分が好きなアーティストがライブ出演するから (4 人)

④ 以前来たことがある

・ 海外のプライドに参加して

・ 昨年、偶然渋谷でパレードを見たことを思い出して

・ 昨年知り今回初めて来た

Q2 東京レインボープライド (プライドパレード) への参加は今回で何回目ですか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

・ レインボープライドと名称変更される前から

・ 覚えていないくらい

・ 参加していない (5 人)

Q3 あなたがこの催しにいらっしゃった目的について、主なものを 3つまで、下の選択肢の中から選んで () 内に番号を記入してください。

○「その他」の回答内容

① 関心・意思表示

・ LGBT 当事者以外の参加者が増えてほしいから (2 人)

・ 自分たち主催の LGBT イベントで協賛してくれそうな企業を探すため

・ トランスジェンダーの小学生もいることを知ってほしいから

・ トランスジェンダーでもチアダンスが出来ることをアピールするため (2 人)

・ 大学に活かすため

- ・自分の仕事や関心事に役立つかもしれないと期待して
- ・トランスジェンダー活動家としてのフィールドワークウィークイベントでの勉強の為
- ・LGBT の理解が深まるように (2 人)

② その他

- ・当事者としてメディア取材
- ・友人に会いに (5 人)
- ・どんなものか分からなかったので知るため (2 人)
- ・小説のネタ集め
- ・去年との変化を見てみたくて
- ・パレードを応援するため
- ・出会い (3 人)
- ・ボランティア (3 人)
- ・会場全体の雰囲気が好きだから
- ・時代を表すイベントを実際に見ておきたいため
- ・ダーツをするため

Q4SQ1 Q4で「1. 満足していない」、「2. やや満足していない」に○をつけた方に伺います。それぞれについてどのような点に満足されなかったのでしょうか。それぞれについてあてはまる番号に2つまで○をつけてください。

○「その他」の回答内容

a.ステージについて

- ・タイムスケジュールがよくわからなかった (2 人)
- ・目当ての出演者が出演しなかった(6 人)
- ・見たい演目が観られる時間にやっていなかった、客席が埋まっていて座れなかった

b.ブースについて

- ・内感のノリが強いブースが多くて気軽に見にくい。企業ブースの方が気楽に感じた

d.飲食の屋台について

- ・対応が不親切だった (2 人)

e.会場全体について

- ・何のイベントだか判らない (3 人)

Q5 レインボーウィークの期間は、この会場でのパレードとフェスタのほか、オープニン

グレセプションをはじめとしてパーティやワークショップなど様々な催しが行われています。あなたはこれらにも参加します(した)か。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・演劇集団 LGBT I 東京の本公演を観劇 (2人)
- ・参加したいが距離が遠い
- ・平日ということもあり、参加したかったが日程が合わなかった (13人)
- ・情報を知らなかった (2人)
- ・参加したいレクチャーが満員だった
- ・当事者ではないため参加しにくい
- ・魅力を感じる催しが少なかった (2人)

Q6 東京レインボープライドでは、レインボーウィークの企画・運営の他、渋谷区の LGBT を対象としたコミュニティスペース (#渋谷にかける虹) の企画・運営なども行っています。「#渋谷にかける虹」のような東京レインボープライドが年間を通じて運営を行う企画として、希望するものやアイデアがあれば、具体的な内容を記入してください。

○具体的な内容

- ・各地方自治体、各都道府県でのイベント (5人)
- ・行政も係わるイベント (3人)
- ・アライの人向けのイベント (2人)
- ・スポーツと LGBT についての取り組み
- ・だれでも参加できる LGBT を身近なものとするようなイベント (5人)
- ・花火大会
- ・一般の人がもっと気軽に参加出来るような、初心者向けの知識を入れるようなイベント
- ・町の清掃活動
- ・運営の実態が見えにくいので一般向けの報告会や座談会
- ・LGBT 講師養成講座 (3人)
- ・気軽に LGBT のことについて相談できる窓口
- ・LGBT が落ち着ける駆け込み寺
- ・LGBT がカミングアウトしやすい場づくり
- ・青少年向け教育 (3人)
- ・未成年で性に悩んでいる子供たちへのアプローチ (2人)
- ・当事者の交流の場 (4人)
- ・LGBT に係わる、援助できる仕事、求人の紹介
- ・健康管理、疾病予防について相談出来る窓口 (2人)
- ・意識啓発イベント (2人)

- ・ LGBT カフェ (2 人)
- ・ 遠方から参加のできない方々も交流が出来るようなオンライン配信などで参加型のイベント
- ・ セクシャルを細かく分けた催し (4 人)
- ・ セクシュアルマイノリティが自己肯定感を持てるようなクィア理論等の書籍を扱う読書会や勉強会
- ・ セクシュアルマイノリティの当事者活動や当事者らの過去の記録、勉強会 (2 人)
- ・ セクシュアルマイノリティの貧困や障害者についての勉強会や支援 (4 人)
- ・ クラブイベント
- ・ 大学を絡めたイベント
- ・ ニコ生などでの放送や LGBT に対する各党の見解、分析
- ・ 飲み会
- ・ 年間を通じて看板を設置する

Q7SQ1 Q7で「2.LGBT 関連の活動はしていない」と回答された方に伺います。そうした活動をされていないのはなぜですか。もっともあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・ 時間がない (3 人)
- ・ 好きでないから
- ・ 当事者でないので参加してはいけないかなという気後れがある
- ・ 日本語が苦手

Q8SQ1 Q8で「1.ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた授業はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・ 性同一性障害のホルモンについて生物学的な話のみ
- ・ トランスジェンダー、性同一性と性同一性障害、それに対するカウンセリングなどについて
- ・ LGBT 文学史
- ・ 教師の偏見

Q9SQ1 Q9で「1.ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた研修はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・ 当事者の私に考慮して社長さんが開催してくれた

- ・人権研修の中にあつた
- ・自分が職員対象に行った（2人）

Q9SQ2 Q9で「1.ある」と回答された方に伺います。その研修の対象はどのようになっていましたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・団体スタッフ全員とボランティア（希望者）
- ・毎年 Web 上の簡単なコンプライアンス研修は社員全員、それ以外に所属部署で1度取り上げられた

Q10SQ1 Q10で「1.あつたほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・人権問題として多様性教育を絡めて話をきちんとしてほしい（6人）
- ・差別や偏見とは何か、人を好きになることの大切さ、道徳的なこと（5人）
- ・憲法で今の人権や自己決定権を学ぶことから始める
- ・広く身近に多くの LGBT がいるということをきちんとした理解者が指導する（2人）
- ・「外見でわかるものではない」ということを教えてほしい
- ・LGBT の団体に特化した講義でない方がいい
- ・当事者の話などではなく、きちんとした研究をもとにした内容
- ・それぞれの学年に応じて、行き過ぎず相応な内容を。
- ・周りに流されない自分だけの考え方ができる教育が必要
- ・当たり前存在するのだという趣旨の授業

Q11SQ1 Q11で「1.あつたほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・大企業の多くはセクハラやパワハラの研修はあるのだから、それらの中で具体的に説明して欲しい
- ・身近にいるということを伝えたい（2人）
- ・自分が当事者の為、面接時や、入社してからも様々な事を伝えてきた
- ・ハラスメントと差別的な事象を主に
- ・就業規則等でハラスメントへの対応を定めた上で、正しい知識を普及させる場を設ける
- ・マイノリティという認識ではなく多様性というスタンスの考え方を伝える

Q11SQ2 Q11で「1.あつたほうがよい」と回答された方に伺います。実施する対象者はど

のような形がよいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・一部の意識が高まる（一部だけで盛り上がる）だけでは意味がない
- ・知識や理解がない人にこそすべき
- ・サービス業は全員。他はマネージャ・リーダー層で先に学んで欲しい。その後全員。

Q15SQ1 Q15で「1.利用しない」、「2.絶対利用しないというわけではないが、たぶん利用しない」と回答された方に伺います。利用しないのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・パートナーシップに反対だから
- ・今のままの性別で結婚する気がない
- ・現在パートナーがいないから（8人）
- ・宗教的信条
- ・戸籍や身体の性の関係で利用できないから（6人）
- ・パートナーの理解が得られそうにないから
- ・必要な内容はほかの書面で代替できるから（2人）
- ・異性と付き合っているから（5人）
- ・身体的・戸籍上は異性カップルなので使いづらい（2人）

Q15SQ2 Q15で「3.必ず利用するかどうかわからないが、たぶん利用する」、「4.必ず利用する」と回答した方に伺います。利用しようと思うのはなぜですか。その理由としてあてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・利用することによって少なくとも「少数だけれど存在している」ことを世の中に示したいから
- ・現状法的な何かは無いので基本的には記念程度
- ・現行の婚姻制度への批判のため
- ・すでに同性婚(国際結婚)をしているが今の結婚状態が無効になる恐れがあるから

Q16 渋谷区の同性パートナーシップ証明書も世田谷区のパートナーシップ宣誓書も法的な保障制度ではありません。あなたは、日本においても、同性カップルに対する法的な保障制度が必要だと思いますか。必要だと思われる制度について、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・不要

- ・婚姻制度自体に反対（2人）
- ・法的婚姻の形自体をもっと自由で柔軟にしたほうがいい（5人）
- ・憲法規定の解釈を変える
- ・台湾のように結婚が同性でできない状況が人権違反であるということを国が認める
- ・同性カップルだからという理由で損がない制度にしてほしい

Q20 あなたのおすまいはどちらですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

1～6 以外の国内

- ・北海道
- ・山形県
- ・宮城県（6人）
- ・秋田県
- ・大阪府（5人）
- ・京都府
- ・滋賀県
- ・和歌山県（2人）
- ・三重県
- ・鹿児島県（3人）
- ・兵庫県（2人）
- ・長崎県
- ・佐賀県
- ・愛媛県
- ・徳島県
- ・高知県
- ・愛知県（6人）
- ・静岡県（3人）

海外

- ・イギリス
- ・中国
- ・ポーランド

Q21 あなたは現在どなたと暮らしていらっしゃいますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・友達 (4人)
- ・子(6人)
- ・おば
- ・生徒
- ・いぬ (2人)
- ・シェアハウス (5人)
- ・元カレ
- ・パートナーの兄弟
- ・母のパートナー

Q22 あなたのご職業について伺います。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・国会議員
- ・フリーランスカメラマン
- ・役者
- ・市議会議員

Q25 生涯をともに歩んで行こうと思う特定のパートナーの方ができた場合、あなたは、どのようなことを望みますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・同性婚、もしくは性適合手術を受けて結婚する (3人)
- ・男女のカップルに対する無関心的な自然
- ・自分の親との同居
- ・不妊治療助成金
- ・婚姻、相続、治療の同意など異性婚と同様の扱い (12人)
- ・まずは互いの幸せ (2人)
- ・子供が欲しい (3人)
- ・相手の性自認や見た目の性別による

Q26 生涯をともに歩んでいこうと思う特定のパートナーの方ができた場合、あなたは、パートナーの方と子どもをもちたいですか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・その時になってみないとわからない (3人)
- ・自分は欲しいがパートナーは求めている
- ・経済的に難しい

Q26SQ1 **Q26** で「1.パートナーもしくは自分と血のつながった子どもを持ちたい」、「2.パートナーもしくは自分と血がつながってなくても子どもを持ちたい（養子など）」と回答された方に伺います。それは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・少しでも普通の家族に近づきたい
- ・LGBT であるという理由でできないことがあるのがいやだから（2人）
- ・子供が好きだから（2人）
- ・家庭の環境が子供に大きな影響を与えるから
- ・親に孫の顔を見せてあげたいから
- ・養子や里子を持つことで、恵まれない子供たちの役に立ちたいから（3人）

Q26SQ2 **Q26** で「3.子どもは持ちたいと思わない」と回答された方に伺います。それはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・子供が好きでない（7人）
- ・子供を育てることに迷いを感じるから
- ・自然の摂理に逆らってまで持つことよりも、貧困の子供達への寄付などの支援こそが意味があると思うから
- ・生殖機能自体が苦痛だから
- ・子育てに興味がないから。
- ・自分が子育てできるとは思えないから（3人）
- ・血がつながっていないから
- ・好きな人を一番に想っていたいから
- ・高齢の為（3人）
- ・親のエゴで子供を持ちたくない
- ・子育てできるほどの余裕がない（3人）
- ・自分の時間が大切だから

Q27 あなたの身体的性と性自認について伺います。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・クエスチョニング
- ・身体的性は男性であり、性自認は男性女性どちらもあり変化する
- ・あいまいでわからない（3人）
- ・身体的性は女性だが、性自認は女性とは言い切れない

- ・このような分類に意味を見出していない（5人）

Q28 あなたの性的指向についてお伺いします。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・クエスチョニング（2人）
- ・男性愛
- ・わからない（9人）
- ・アロマンティック・パンセクシュアル（恋愛感情を持たず、性別にこだわらず性的欲求を抱く）
- ・レズビアンノンセクシュアルです
- ・ジノセクシャル(女性だけを好きになる)
- ・特に限定したくない
- ・MtX ビアン
- ・非異性愛
- ・ゲイ寄りのパンセクシュアル
- ・精神的には女性を愛していますが、性的には男性に惹かれる
- ・パンロマンティックデミセクシャル

Q29 あなたがご自身の性自認や性的指向について自覚されたのはいつごろからですか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・社会人になってから
- ・40歳頃（2人）
- ・30歳頃
- ・あいまい（3人）
- ・最近（2人）
- ・性自認については大学生、性的指向については高校生

Q30SQ1 **Q30**で「2.一部の人にだけしている」と回答された方に伺います。具体的にはどなたにカミングアウトされていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

○「その他」の回答内容

- ・一部の友人（30人）
- ・カウンセリングの先生（2人）
- ・ファンの方
- ・音楽関係者

- ・美容室の先生
- ・LGBTの当事者（2人）
- ・主催している某イベントの参加者、職場の二丁目のバーのキャストや客など
- ・ボランティアの仲間
- ・塾の先生。
- ・所属教会の神父、信徒
- ・趣味、サークルのメンバー（2人）
- ・子供
- ・音楽教室の先生

（自由記述項目）

今回のイベントやこのアンケートに関しましてご意見・ご感想がありましたら、以下にご自由にお書きください。

●要望

○イベントについて

- ・世界のプライドデーとなぜ同じ日に実施しないのか。日本での開催のインパクトがほとんどない。
- ・国民支持率の少ない政党の宣伝の場にしないでほしい

○ブースについて

- ・各ブースのジャンルがはっきりしすぎていて、Xジェンダー等まだ広く知られていないジャンルの性的少数者に関するブースがもっとあればいいと思った。（3人）
- ・Prideの趣旨をもっと理解してほしい。（8人）
- ・HIVに対して差別的なブースがあった。（2人）
- ・企業系ブースの広さの割に、コミュニティ・NPO系のブースが狭い。（7人）
- ・何を訴えたいブースかわかりにくい。（6人）
- ・営利目的のブースが増えた。（5人）
- ・書籍販売のブースが少ない。（LGBT関連の情報がほしい）
- ・基礎的な知識を入れる初心者向けのブースがほしい。（2人）
- ・商品の価格が高い。（15人）
- ・当事者のお店やTRPならではのお店が少なかった。（4人）
- ・もっと開かれた広いブースが増えればいい。
- ・東京レインボープライドでFTMを打ち出したブースでFTMだと打ち明けると、MTFに見える自分は差別的な扱いを受けることがある。
- ・地方から来るとこの時期の開催は新幹線と宿の確保に苦戦するので出来れば違う時期に

やってほしい。

○運営について

- ・終了時間が早い。
- ・プロの舞台監督、いわゆる仕切りを入れる時期に来ているように思う。
- ・不必要にビラを配っていたり、配る人がブース前に立っていたりして通行の邪魔だった。各団体のビラをまとめて置いてある場所があれば、無駄なく必要な情報が得られて良いと思う。
- ・幅広い年代の人が参加しやすいイベントにしてほしい。どちらかというと若者向けという感じがするので。
- ・会場トイレのサインなどを配慮すべきだと思う。こういうイベントだからこそ、積極的にやるべき。(2人)
- ・小さい子ども(8歳くらいまで)は背も小さく、会場の中で危ない思いをしていたと思う。私は背丈の小さい子どもに何度もぶつかりそうになった。子どもが来ること自体はいいことだが、誰もが楽しめる安全なイベントを運営するためにはその点を配慮が必要。
- ・整理券の配布や会場規模、ブース配置の見直しが必要。
- ・イベントについてはお祭りのような雰囲気がちょっと苦手なので静かな人でも参加しやすい企画があるといいなと思いました。
- ・公式フリーペーパー、発注数を読むのは難しいと思いますが、二日目の早いうちには配布が終了しており読むことが叶いませんでした。部数を増やしていただけると嬉しいです。
- ・わたしはパートタイムのクロスドレッサーで、性対象は異性です。LGBTには当てはまらず、Queerになるかと思いますが、イベント時も当アンケートでも、正直、疎外感を感じました。
- ・テーブルやイス、ごみ箱を増やしてほしい。(3人)
- ・屋台をもっと増やしてほしい。(2人)
- ・休憩スペースがほしい。(2人)
- ・「個人のジェンダーについて他者から干渉されたくない人々」への配慮が感じられなかった。
- ・トイレが汚かった。(2人)
- ・聴覚障害者のため楽しめられなかった。(2人)
- ・参加者にはカミングアウトしておらず写真等に写ってしまうと不利益を被る人も多くいるため、運営側として報道関係者、参加者へマナー・モラルを守るよう呼びかけをもっとしてほしい。(2人)
- ・ウェディングの写真を撮るイベントに参加したが、顔写真が様々な場面で公開されることの説明が一切されていなかった。

- ・人の多さに対して会場が小さすぎる。(4人)
- ・パンフレットがなくタイムスケジュールや場所などが全く分からなかった。(8人)
- ・ペットボトルが少ない、水タンクでもあると助かる。
- ・会場案内図の大きいボードや矢印などがほしい。今年の T シャツやトートバッグもチャリティとして、クラウドファンディングに出してもらえたら嬉しいです。(買いに行けなかったのも)
- ・昔から活動して支えてきた NPO 法人やサークル・グループのブースが狭い場所に置かれたのは違和感があった。
- ・ステージ裏のトイレの近くで妻が出てくるのを待っていたら、パレード終わりの出演者が通るのでどいてくれと繰り返しアナウンスされて迷惑だった。

○パレードについて

- ・後方の出発時間が遅い。(3人)
- ・もっと情報提供してほしい。(5人)
- ・間にバスやタクシーが入ってきてフロード同士が離れすぎ。(8人)
- ・すべてのフロートで音楽が流れるようにしてほしい。
- ・運営管理体制や交通規制のやり方を変えるべき規模になっていると感じた。(4人)
- ・音が大きすぎる。(2人)
- ・主張をもっとわかりやすく示してほしい。(2人)
- ・車が少なく少し寂しい気がした。
- ・パレードの主役が企業になってしまっているように感じた。
- ・「ただ歩くだけの見世物」になってしまっている。(5人)
- ・パレードも登録制ではなく当日でも参加できるようになればより多くの人を楽しめ理解が深まると思う。
- ・1車線だけあるくのがみすばらしい。道路全体を貸し切り歩きたい。
- ・沿道がもっと盛り上がったらいいと思いました！会場にいる人たちに沿道での応援を促すことができれば、もっとパレードがあたたかいものになるのでは。
- ・フロートの参加申込は Web 上にしてほしいです。
- ・パレードはペット参加禁止を提案します。暑い中、3キロの道程を、水も飲めずトイレも出来ず、引きずられるように歩いている犬が何匹かいて可哀想でした。

●感想

○パレードについて

- ・来年はもっとチアダンスの技術を磨いて、パレードに挑みます！
- ・パレードを毎年開催するのは大変だと思いますが、頑張っって欲しいです。応援しています。ただ、個人的には、2001年 2002年頃のパレードの方が、普段リーマンやっている

Gmen 系の人たちとかが勇気を出して参加していて、感動があつて良かったと思っています。多分 LGBT の中でも最も多数を占めている人たちだと思いますが、今は全然見かけなくて、そういうブースもフロートも皆無で、何故なんだろう、もしかしてパレードはそういう人たちに来て欲しくないのだろうかと思ってしまいました。そこが残念です。

- 今回は、いろいろなイベントに参加しました。パレードを最初のフロートから最後のフロートまで、見届けました。いろいろなシーンで、胸がいっぱいになり、涙が溢れました。一年近くかけて準備をされてきた皆様には、おつかれさまでした、そして、ありがとうございました。
- 来年はパレードに参加したいです。

○イベントについて

- 出会いはどこにあるのかと思ったが自分から声掛けしないといけないと思った。
- 社会がもっと寛容になれるようなこのようなイベント素敵です。
- **HAPPY PRIDE!!**
- 毎年楽しく参加させていただいています。
- バレンタインやハロウィンのようなお祭りになればいいなと考えます。性についてあらゆる人たちが考える機会のある場やイベント、期間になれば良いと考えるからです。私は 20 年ぶりくらいに参加致しました。アライの方々が沢山参加されていてとても勇気をもらいました。LGBT についての理解が深まるイベントになってもらいたいです。ただ、タイツを嗜好されるのはあまり生活するには支障ないことなのかと感じ、イベントの広がりについて少し疑問を持ちました。性というものに特化した方が良いのではないかと。SEX と性は違うと感じました。私がタイツを SEX だと認識しているだけなのかもしれませんが。
- 一時的・一過性のイベントでなく、毎月などの単位で長く続けて欲しいです。
- ステージを楽しみにしています。前回の 2017 は出演が FTM だけで、その他の活躍されているグループは出ていなくて、(特に推しメンの gay グループ) ととても残念でした。なのでテーマは FTM って決めたのかと思うけど、他の gay やレズのグループにチョットだけ差別して出さなかったのかなと思い、ガッカリしました。2018 はそれもふまえた上で開催してほしいと思います。
- LGBT に対して様々なところで考える機会をもっともっと増やしたいと感じました。これから出会うかもしれない LGBT である方との付き合い方にもこのイベントに参加出来た事で変化が生まれ少しでも LGBT の方々が暮らしやすい社会になるようずっとこのイベントが続き差別やいじめ、偏見が少なくなって欲しいと思いました。
- このイベントを Twitter で知り勇気を出してパートナーと向かいました。イベント会場にいと、自分は間違っているとか、変とか、こんな感情を持っていることはおかしいとかそんな気持ちをとっぱらうことができました。これでいいのかもしれない。このままでいいんだ。そう思える場所になっています。

- ・年々本格的なイベントに成長していることに驚き喜ぶ反面、とくに今年は随分と企業色や参加が増えて二丁目的なノリや場末感が薄れてしまった様に見えて寂しく感じました。色々とお金の面とか運営側は大変だとは思いますが、日本らしいもっと年に一度のお祭り騒ぎみたいな雰囲気は個人的には希望なんです。自分が更に年をとったせい、毎年楽しみにしていますが、どんどんと遠い所へ行ってしまおうような気がします。
- ・自分の知識があいまいなためこのイベントを通じて学ばせていただきました。
- ・今日初めての参加でした。LGBT 当事者、そうでない人たちも生き生きとしていてすてきなと思いました。会場の案内図をもう少しいろいろなところにほしい。協賛企業の多さに驚きました。これが一過性のものでなくこれからも続くことを願っています。これからも頑張ってください。当事者としても一歩ずつできること頑張っていきます。
- ・おつかレーシック 角膜ペリペリ
- ・今回初めて参加しましたが会場にいる人全員が少なからずセクシュアルマイノリティに興味があると思うとそれだけで楽しくなる。今後も続けていってほしいです。
- ・次回も参加したい。
- ・来年は、ボランティアでの参加、また Queer への理解を求める動きも多少なりしていきたいと感じております。
- ・ここ数年、娘とパレードの応援をしに行っています。 周囲に LGBT の人はいませんが、人として人を愛する心は男女関係なく素敵な事だと思っています。 また、会場ではいつも当事者の方からフレンドリーに接して頂き、パワーをたくさんもらっています。「私も素直に、ありのままで生きていきたい」と前向きに思える素晴らしいイベントだと、いつも感じています。
- ・手話通訳制度付いて欲しいです。
- ・どうしても、セクシュアルマイノリティの中でもマジョリティであるゲイやレズビアンが目立つのは仕方ないことだが、女性が 2 人でこの場にいることはすなわちレズビアンカップルである、と見なされたことがあり(実際には友人である)、多様性の本質が欠落していると感じてしまったのは残念だった。わたしは当事者だが、つまり、アライやパートナー関係でない関係が見落とされてしまい少し肩身が狭かったのではないかと感じた瞬間がありました。それ以外は概ね楽しめました。
- ・初めて参加しましたが、とても幸せな空間だなと感じました。
- ・今回は、一般社団法人 LGB.T からのスタッフとして参加します。関西から歌手の方を TRP 参加は二度目、パレードは初参加でしたが、満足です！素敵な 1 日になりました。観る予定のステージがパレード中に終わってしまったことが唯一残念な点なので、できればパレードとステージの時間が被らないといいなと思います。また来年も楽しみにしています！
- ・結局イベントの趣旨や僕達が望むものは LGBT に対する理解だと思うんです。しかしながら参加者の多くは当事者や関係者の方々。もっともっと一般の方が参加して下さる様

な企画を期待しております。

- LGBなどの性指向を否定するつもりはないが、いちいち表明するのはこの国の文化には馴染まないと思う。個人的には純女の婚活なども不愉快に思っている。LGBとTが統合してイベント実施するには非常に違和感を覚える。性指向の点での minority と性自認の点でのそれが一緒っていかなものか？切り離さないとダメだと思う。啓蒙的なイベントなのか showoff したいだけなのか、主旨が曖昧なイベント。その意味で珍奇な際どいファッションや半裸の人が会場にいることに違和感を覚えた。特に、高齢者や幼児に見せるにはいかなものか。LGBT への理解が最も得難い高齢者へのアプローチはどのように？彼らのサポートがなければ今後も活動は厳しいと思うが。
- 誰もが着たい服を着て、自由に過ごしていた。このイベントの中だけでなく、街の中が TRP になることを望みます。
- 今回初めてレインボープライドに参加しましたが、想像以上に楽しく、そして心地よい時間を過ごせたと思います。パレードにも参加し、このイベントを知らない方とも言葉を交わさずにハイタッチなども出来て、日本はそこまで LGBT に大して冷たい国では無いと実感しました。東京オリンピックも控え、これから日本人だけでなく海外の方も日本を訪れる機会が増えると思うので、来年、再来年とさらにレベルアップした東京レインボープライドにしていだけたら嬉しいと思います。また参加したいと思える最高のイベントでした！
- 個性を尊重する会場全体の雰囲気が好きです。わたしは LGBT 当事者ではないですが、趣味や興味が「ひとと(かなり)違う」のでいつでもどこでもマイノリティ感を感じます。TRP の会場は LGBT だけでなく、あらゆる個性をすべて受け入れる包容力の大きさが居心地の良さを作ってくれていると感じます。社会そのものがこういう雰囲気の世界になったらいいのになと思います。ところで、今回、案内のチラシが全部はけてしまって貰えなかったのが残念でした。もしそれが、去年を遥かに上回る多数の参加者がいた為だったら、嬉しいことだと思います。でも、単に部数を減らしたら足りなくなった、だったら寂しいです……
- 運営お疲れさまです。何かとご苦勞も多いかと思いますが、感謝しています。ツイッター等を見ていると、ヒステリックな批判を目にする事もありますが、非常識な批判は気にせず、これからも楽しいパレードが続けられるといいな、と思います。大変かと思いますが、これからも頑張ってください。(^^)/
- レインボープライドに参加してボクの中でかなりの自信になりました。仲間がいて、居心地が良くてとても楽しかった。来年は是非、運営側として参加したいと思っています。ありがとうございました！
- 今回初めて、彼女に誘われて東京レインボープライドに行きました。レスリー・キーさんにブライダルフォトを撮っていただけたことありますが、今までに行った LGBT イベントの中で一番楽しかったです。今年はパレードで歩けなかったのが、来年は絶対に

パレードに参加したいと思っています。

- 素敵なイベントに参加でき、またその発信により、ノーマルの友人達にもご理解、関心が広まり本当に楽しい毎日です。明日も、パレードで知り合った方々の舞台を観に行きます。そして、湘南で新たにできました、FTM 仲間と初対面に、日曜日は海へと繰り出します。来年にはきっと、拡大しています。また、みんなで参加を致します。スタッフの皆様、大変お疲れ様でした。これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます!!! 湘南にも、LGBT コミュニティスペースをいつの日か作り上げます。我が家は、サーフィン教室も開いております。LGBT のみならず、様々な、マイノリティの方々がお見えになります。宜しければいつの日か皆様も遊びにいらして頂きたいです。僕も活動頑張ります!!!
- 去年、一昨年と比べ、規模が大きくなり、参加者の数が膨大になっていると実感しています。一般の人たちが増えたように感じて、認知を広めるのによい機会だと思う反面、無関係の人がただお祭りに参加するためだけに来ているのであれば邪魔だと感じる部分もあります。もう少し閉鎖的であってほしいと思うものの、イベントの方向性が開放的であり、そうであるべきだとも思うので、TRP はこのままであって欲しいという結論です。ただ、今後の参加に関しては悩んでいます。人が多すぎてブースを回るのが苦になってきたと感じました。
- 毎年成長していくレインボープライド、ちょっと今年のパレードは人が多いのに寂しくなった感じがしました。大変なことだとは思いますがまた来年楽しみにしています。
- プライドパレードは年に1度の息抜き。普通と言われるものから解放される日です。
- 今、これからの時代にとっても重要なイベントだと思っています。色んな意見もあると思いますがこの開かれたイベントも必要だと痛切に感じています。
- 家族と一緒に参加しました。子連れでも十分楽しめ、子どもたちに色々な人たちが生活していることを話すいい機会になり、感謝しています。来年も参加したいです。
- 年々、大きなイベントになってよかったと思いました。明らかに企業スポンサーが増えています。その分、反社会的勢力から距離を置いていくことがさらに重要と思いました。自由であってほしいですが、無法ではないと考えるからです。今回のウィークも含めた中で印象深いのは、ジェンダー指数 110 何位くらいで、こんなに性差がある国で、トランスジェンダーが幸せになれるわけない、みたいな発言を聞いたことでした。どうしても、ゲイの方が主役になりがちですが、広い視野の発言が嬉しかったです。当事者ではないですが、参加することで、自分の性について、肯定できる感じがして、参加することで嫌な思いをすることもあるけど、エンパワーメントされます。
- LGBT では無いですが、関心があり、このイベントも何年も前から行こうと思いつつ、やっと初めて参加しました。参加できて、ブースで LGBT 問題を扱った資料を読んだり、賛同の署名を書いたり。参加している人達が楽しそうにしているのが見られたのも良かったです。

- ・私は当事者ではなく、トランスジェンダーの中学生の息子と勉強の為に来場しましたが熱気は伝わるが大人の祭りという感じ。若いトランスジェンダーにも気楽に門戸を開放して欲しいところ。
- ・これから社会がどう変化していてもパレードは続けて行ってほしいと思います。
- ・注目を集めれば良いというものではない。まずは皆が楽しめるイベントを、主義主張はその後。

○LGBTについて

- ・自分が一体何者なのかよく理解できないまま一生誰とも接することなく終わりそうです。いろいろな身体的表現のできる場所がほしい。そこで話をしたい。
- ・もっと LGBT の方々が暮らしやすい社会になるように願います。『好きに理由なんてない』ということをもっと推奨できれば良いなと感じました。
- ・周りの LGBT の方が暮らしやすい世の中になるようにがんばりたい。
- ・学生なので職場での理解・カミングアウトの問題は大きいです。何が正解かはわからないけど一人でも多くの方が幸せになれるような社会を目指したい
- ・東京の地下鉄の各駅に「誰でもトイレ」(多目的トイレ)を設置する働きかけを。名古屋や大阪と比べるとトイレ少なすぎ。
- ・どうもまだ一般の人に知られていません。渋谷区や世田谷区に住んでいる人も知らない人が居る事につながり来ることがあります。もっと公共に私たちの活動が知られるためには NHK スペシャルや公共広告機構 AC にも取り扱ってほしいですね。
- ・教育現場における LGBT の理解を望みます。教員の間でも理解のない者がおり、傷つけられる生徒がいます。
- ・なんでもかんでも LGBT でくくるのはやめるべき。構わず放っておいてもらえるのが一番、と思っている当事者がものすごくたくさんいる、ということをよく理解して活動してってください。
- ・オカマが差別用語であることに強い抵抗感を感じます。M t F とかわけのわからない呼称の方が使いたくないし不愉快です。
- ・長く一般的な生活をしてきましたが、縁がありこのような活動を知ることができました。もっと若いころにこのような環境があったらまた何か違っていたかなと思う。けどすべてが思うような人生でなくてもよかったこともあったのも事実だしこれからはこのような活動があることを心においてまた生きていきたいと思う。
- ・自分がどんな人間なのか分かりません。母親が何かにつけて「ゲイと関わりたくない」という会話をしてくることに、モヤモヤを感じている者です。ある時母親に聞きました、「私がもしゲイと結婚するとしたら?」「それは嫌だ」と母は言いました。とても傷つきました。どんな相手でも、私が愛する人がいるならば、それが私の一番でありたいのに。ただ、そういう人もいる、それを全否定するのも良くないと思うのです。日本国民皆大

声が大好きでしょう。LGBTを受け入れよう、という声が段々大きくなったのならば、それをどうしても受け入れられない、受け止めきれない人の声はどうなるのでしょうか。そんなことも考えています。そんな中途半端なものですから、パレードにも積極的に参加する気になれません。今の時代、日本では女性は社会進出当たり前、結婚はしてもしなくてもきつく言われない時代です。だから私のような人は沢山いるかもしれません。私達の社会、大きな目標は何なのかと言われれば未来への発展と継続。私も将来、偏見のない世界を見たいのは変わりません。そのためには様々な努力がなければ変化はないのは確かなのですが、その途中段階にどうしてもこの言葉を使わざるを得ない、というような配慮が欲しいのです。それがもし、会場で伝えられているならば申し訳ないのですが、それは外まで届いていない。様々な考えがあるということを忘れず、ここに留めておきたいと思います。

- いつか「セクシャルマイノリティに権利を」といわずともいい祭典になればいい。憲法上、本来全ての人に同じ権利が与えられているのだから、性別関係なく婚姻は認められると思っています。これからもがんばってください、私も頑張ります。
- 性指向や性自認については自分でもよくわからない人やどれもあまりしっくりこない人もいることがもっと知られるようになってほしいと思います。
- 夫に仕え子どもを育て上げた「老女」が、ほんとはやっぱり女性が好き、Lの高齢者が集まる施設を作ってくれたら入りたい、なんて言い出す世の中になってもいいんじゃないかと思う
- 少しでもLGBTの理解促進と法的保障が得られたらいいと思う。
- LGBTに関する授業はすべての年齢で実施すべき。

●アンケートについて

○改善点・要望

- 設問が長い。
- 複数項目の回答を増やしてほしいです。
- 性自認などの自覚の時期を聞く質問ですが、僕は違和感を覚えはじめた時期と、自覚の時期が大きく違います。違和感は小学校入学前、自覚は高校生時代です。そういう人は、僕以外にも多くいると思いますので、分けて聞いてみてはどうかなと思いました。
- パンセクシャルの説明で、すべての人に恋愛感情～とありますが、全員に恋愛感情を持つわけではなくて、相手の性別を限定しないだけです。
- iPhoneでアンケートに答えたが、すぐに「その他」の項目が立ち上がって、入力しづらかった。反応するエリアを少し狭めた方が、恐らく入力しやすいと思う。
- 後半の設問はイベントとは関係がない、長い。不愉快に感じる。
- 質問が多いです。
- アンケート設計の不備が目立ちます。正直答えづらい上に、後半に想定する結論が透け

て見える質問が目立ちます。

- LGBT かどうか、という尋ね方は、X やノンセクシュアルにとってはどういう趣旨で聞かれているのか戸惑いました。アンケート全体の趣旨からセクシュアルマイノリティの当事者かどうかという問だと理解した上で回答しました。
- 性的指向の部分で、自分はバイセクシャルとノンセクシャルなので複数回答可にしていただけだと助かります。
- LGBT(セクシュアル・マイノリティ)という表記に、正直混乱しました。L/G/B/T の4つのどれにも該当しないセクシュアル・マイノリティもいます。
- イベントそのものを深掘りする質問が少ない。広報の仕方、2日間のイベントの設定、時期などに関する質問の方が、一般的な職場や学校に関する質問よりも大切ではないか。
- 質問票の設計段階でその対象層の設定が偏っている(限られている)。
- いつの間に「LGBT」は「セクシュアルマイノリティ」と同じ意味の言葉になったのか。質問項目についても全員がパートナーを持ちたいと思っていることを前提にしているかのように感じたので、アセクシュアルを始めとする多様なセクシュアリティの人々に対する配慮を望みます。
- 職場の LGBT 理解、人づきあいの不便・不自由、日常生活の不便、不自由、社会保障制度における不便・不自由、カミングアウト状況は LGB と T に別けて質問すべき。
- 東京・関東以外に在住する人もこの東京レインボープライドに数多く参加するので、住居の質問に、東京・関東以外の選択肢も地域ごとに分けて複数作るべきだと思った。地方在住者の方が、不安や憤りを感じながら生きていて、このイベントのために上京することを楽しみにしていると思う。
- アセクのところ、他者に愛情を抱かないだと悲しいので、愛情じゃなく恋愛感情だと嬉しいです… 恋愛感情はわからなくても情はあるので。
- 様々な質問に「私には当てはまらない」という答えがなかったことは不便でした。
- このアンケートページが、重くて(答えてみたい内容なのに)非常にストレスでした。また、最初の設問の「今回」というのは2016ではなく2017という解釈でよろしいでしょうか？
- Q27について性分化疾患の場合はどうするのか。

○感想

- こういう形で学門の進歩に貢献できて何よりです
- 一つ一つが丁寧に説明されていてわかりやすかった。この結果を多くの人に見てもらいたい。
- アンケートの作成お疲れ様でした。マイノリティもマジョリティにも答えられるアンケートでした。
- これから会場を回るので内容については適当に書きちゃいました。結果が気になります。

頑張ってください。

- 初めてアンケートをやりました。頑張ってください。
- アンケートで意見を聞いてくれるのは嬉しいです。
- 調査に取り組んでおられるみなさん、お疲れ様です。
- この調査が、今後のセクシュアルマイノリティをとりまく状況な改善に活かされていくのを期待しています。 アンケート集計など、こらからの作業も大変だと思いますがどうぞ頑張ってください。
- 結果の公表と、それに基づく政策提言を早急に望みます！

(参考資料) 調査票見本

東京レインボープライド 2017 来場者アンケート

お願い

本アンケートは、東京レインボープライドにご来場、ご参加くださった方々を対象として、本イベントのご感想、ご意見をお伺いし、来年度以降の開催にあたっての参考にさせていただくことを目的としています。「駒澤大学『人を対象とする研究』に関する倫理委員会」の承認を受け、「東京レインボープライド 2017」の協力を得て、「駒澤大学文学部社会学科松信ひろみ研究室」が主体となって実施するものです。

無記名でご回答いただきましたアンケートは、統計的な処理により、個人の回答は特定できない数値の形（どの回答が何%といった形）で表されます。アンケートでは、みなさまの年齢や職業、セクシュアリティ、そして日ごろの活動や様々な事柄に関するお考えなど個人的なことも伺っておりますが、これらは、どのような方がどのようなご感想・ご意見をお持ちなのかといった傾向を分析するために必要なものです。本アンケートの趣旨をご理解の上、可能な限りご回答いただけますよう、お願い致します。

なお、本アンケートの結果は、秋以降の「東京レインボープライド 2017」の HP にて公開される予定です。また、昨年度の来場者アンケートにつきましては、現在 HP 上にて公開中です。

ご回答へのご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

2017. 5. 6 / 7

調査主体：駒澤大学文学部社会学科社会学専攻

【レインボープライドの会場でのイベントについて伺います】

Q1 今回の東京レインボープライド 2017 を知ったきっかけについて、あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

- | |
|------------------------|
| 1. 友人・知人の紹介 |
| 2. 自分がかかわっている団体が参加する |
| 3. ラジオ放送などマスコミの報道 |
| 4. HP などインターネットのサイトをみて |
| 5. Twitter をみて |
| 6. たまたま会場の近くを通りかかった |
| 7. 以前から来ている |
| 8. その他（具体的に： _____） |

Q2 東京レインボープライド（プライドパレード）への参加は今回で何回目ですか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 1回目（初めて） | 4. 4回目 |
| 2. 2回目 | 5. 5回以上 |
| 3. 3回目 | 6. その他（ _____） |

Q3 あなたがこの催しにいらっしゃった目的について、主なものを 3つまで、下の選択肢の中から選んで（ _____ ）内に番号を記入してください。

1. (_____) 2. (_____) 3. (_____)

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. パレードに参加するため | 2. パレードを見物するため |
| 3. ブースを出展するため | 4. ブースでの買い物や見学のため |
| 5. ステージに出演するため | 6. ステージを見るため |
| 7. ボランティアとして参加 | 8. たまたま通りかかった |
| 9. LGBT に関する様々な情報を得るため | 10. LGBT の友人を増やすため |

11. LGBT の仲間と一年に一度のお祭りを楽しむため

12. その他（具体的に： _____）

Q4 会場でのイベントにはどの程度満足しましたか。a から d に関して、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

	満足して いない	やや満足し ていない	まあ満足し ている	満足してい る	体験・参加し ていない
a.ステージ	1	2	3	4	5
b.ブース	1	2	3	4	5
c.パレード	1	2	3	4	5
d.飲食の屋台	1	2	3	4	5
e.会場全体	1	2	3	4	5

Q4SQ1 Q4で「1. 満足していない」、「2. やや満足していない」に○をつけた方に伺います。それぞれについてどのような点に満足されなかったのでしょうか。それぞれについてあてはまる番号に2つまで○をつけてください。

a.ステージについて

1. 開始時間、終了時間がよくわからない
2. 内容がわかりにくい
3. 内容に関心をもてない
4. 混雑していて良く見ることができない
5. その他（具体的に： _____）

b.ブースについて

1. どこに何があるのかわかりづらい
2. 何のブースなのかがわかりづらい
3. 出展ブースの内容に偏りがある
4. 通路が狭くて混雑している
5. その他（具体的に： _____）

c.パレードについて

1. 集合場所がよくわからない
2. 開始時間がわからない
3. 受付の制限が厳しい（参加人数、締め切りが早いなど）

4. メッセージ性が弱い
5. その他（具体的に： _____)

d. 飲食の屋台

1. どこに何があるのか場所がわかりにくい
2. 食べるスペースが狭い
3. 同じような内容の屋台が多い（種類が少ない）
4. 混雑しすぎていてなかなか買えない
5. その他（具体的に： _____)

e. 会場全体

1. ブースや屋台など会場全体の配置がわかりにくい
2. トイレの場所がわかりにくい
3. トイレの数が少ない
4. ゴミ箱の場所がわかりにくい
5. ゴミ箱の数が少ない
6. 会場案内がわかりにくい
7. その他（具体的に： _____)

Q5 レインボーウィークの期間は、この会場でのパレードとフェスタのほか、オープニングレセプションをはじめとしてパーティやワークショップなど様々な催しが行われています。あなたはこれらにも参加します（した）か。あてはまる番号にすべてに○をつけてください。

1. パレードとフェスタ以外にそのような催しがあることは知らなかった。
2. パーティに参加した（する予定）。
3. ワークショップに参加した（する予定）
4. レクチャーに参加した（する予定）
5. 交流会に参加した（する予定）
6. オープニングレセプションに参加した
7. クロージングパーティに参加する予定
8. いずれにも参加する予定はない
9. 未定
10. その他（具体的に： _____)

Q6 東京レインボープライドでは、レインボーウィークの企画・運営の他、渋谷区の LGBT を対象としたコミュニティスペース（#渋谷にかける虹）の企画・運営なども行っています。「#渋谷にかける虹」のような東京レインボープライドが年間を通じて運営を行う企画として、希望するものやアイデアがあれば、具体的な内容を記入してください。

()

【以下では、皆様の日常生活やお考えについてお伺いします】

Q7 あなたは LGBT 関連の団体や活動に参加していますか？あてはまる番号に 1 つだけ ○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. LGBT 関連の団体に所属、もしくは活動に参加している (→Q8 へ) |
| 2. LGBT 関連の団体への所属、もしくは活動はしていない (→Q7SQ1 へ) |

Q7SQ1 Q7 で「2. LGBT 関連の活動はしていない」と回答された方に伺います。そうした活動をされていないのはなぜですか。もっともあてはまる番号に 1 つだけ ○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. どのような団体や活動があるのかよくわからないから |
| 2. そうした団体や活動に興味がないから |
| 3. 関心はあるが、機会・きっかけがない |
| 4. まわりにカミングアウトしていないので、かかわることができない |
| 5. LGBT 当事者ではないので、そうした活動にかかわる必要がないと思うから |
| 6. その他（具体的に：) |

Q8 あなたは、これまでに学校で LGBT に関する授業を受けたことがありますか。あてはまる番号に 1 つだけ ○をつけてください。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. ある (→Q8SQ1 へ) | 2. ない (→Q9 へ) |
|------------------|---------------|

Q8SQ1 Q8で「1. ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた授業はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. LGBT やセクシュアルマイノリティといった言葉について簡単に触れた程度 |
| 2. 具体的事例をあげたり、映像などを使ったりして LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明された |
| 3. LGBT 当事者を招いて話しを聞いた |
| 4. その他（具体的に： _____) |

Q8SQ2 Q8で「1. ある」と回答された方に伺います。その授業を受けたのはいつですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 小学生 | 2. 中学生 | 3. 高校生 | 4. 大学生 |
|--------|--------|--------|--------|

Q9 あなたは、これまでに職場で LGBT に関する研修を受けたことがありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. ある (→Q9SQ1 へ) | 3. 非該当 (学生もしくは職場経験がない) |
| 2. ない (→Q10 へ) | |

Q9SQ1 Q9で「1. ある」と回答された方に伺います。あなたが受けた研修はどのような内容のものでしたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. LGBT やセクシュアルマイノリティといった言葉について簡単に触れた程度 |
| 2. 具体的事例をあげたり、映像などを使ったりして LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明された |
| 3. LGBT 当事者を招いて話しを聞いた |
| 4. その他（具体的に： _____) |

Q9SQ2 Q9で「1. ある」と回答された方に伺います。その研修の対象はどのようになっていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------|--------------------|
| 1. 社員全員 | 2. 一部の部署のみ (人事部など) |
| 3. 管理職のみ | 4. 新入社員のみ |

5. 希望者のみ

6. その他（具体的に： _____）

Q10 あなたは、学校で LGBT に関する授業があったほうがよいと考えますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. あったほうがよい（→Q10SQ1 へ） 2. なくてよい（→Q11 へ）

Q10SQ1 Q10 で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. LGBT やセクシュアルマイノリティといった言葉について簡単に触れる程度
2. 具体的事例をあげたり、映像などを使ったりして LGBT 当事者の現状などについても詳しく説明する
3. LGBT 当事者を招いて話しを聞く
4. その他（具体的に： _____）

Q10SQ2 Q10 で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。実施する時期はいつが良いと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 小学生 2. 中学生 3. 高校生 4. 大学生

Q11 あなたは、職場で LGBT に関する研修があったほうがよいと思いますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. あったほうがよい（→Q11SQ1 へ） 2. なくてよい（→Q12 へ）

Q11SQ1 Q11 で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。具体的にどのような内容が望ましいと思いますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. LGBT やセクシュアルマイノリティといった言葉について簡単に触れる程度
2. 具体的事例をあげたり、映像などを使ったりして LGBT 当事者の現状などについて

も詳しく説明する

3. LGBT 当事者を招いて話しを聞く

4. その他（具体的に： _____)

Q11SQ2 Q11 で「1. あったほうがよい」と回答された方に伺います。実施する対象はどのような形が良いと思いますか。あてはまる番号 1 つだけ ○をつけてください。

1. 社員全員

2. 一部の部署（人事部など）

3. 管理職のみ

4. 新入社員のみ

5. 希望者のみ

6. その他（具体的に： _____)

Q12 あなたは、商品を購入する際に、その商品を製造している会社が LGBT に理解のある会社かどうかを考慮して購入しますか（例えば、同じ種類の複数の商品から 1 つを選ぶ際に、多少価格が高くとも、LGBT へ理解を示している企業の製品を買うなど）。あてはまる番号に 1 つだけ ○をつけてください。

1. 全く考慮しない 2. あまり考慮しない 3. やや考慮する 4. 必ず考慮する

Q13 あなたは、仕事を選択する際に、LGBT に理解のある職場であるかどうかを選択の基準のひとつとして考えますか？現在学生の方は、今後の就職活動を想定して、また現在職業をお持ちの方はこれまでの職場を決めた際のことを思い出して、あてはまる番号に 1 つだけ ○をつけてください。

1. 全く考えない 2. あまり考えない 3. やや考える 4. 大いに考える

Q14 あなたは、新宿 2 丁目の LGBT が集まるお店をどの程度利用しますか？あてはまる番号に 1 つだけ ○をつけてください。

1. ほとんど利用したことがない

2. 年に 1, 2 回くらい

3. 2, 3 か月に 1, 2 回くらい

4. 月に 1, 2 回くらい

5. 週に 1, 2 回くらい

6. 週に 3, 4 回くらい

7. ほぼ毎日

Q15 渋谷区では、同性パートナーシップ証明書が、世田谷区では、パートナーシップ宣誓

書が発行されるようになりました。あなたがお住まいの自治体でもこのような証明書が発行されることになったら、利用したいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 利用しない (→Q15SQ1へ)
2. 絶対利用しないというわけではないが、たぶん利用しない (→Q15SQ1へ)
3. 必ず利用するかどうかわからないが、たぶん利用する (→Q15SQ2へ)
4. 必ず利用する (→Q15SQ2へ)
5. LGBTではないので利用できない (→Q16へ)

Q15SQ1 Q15で「1. 利用しない」「2. 絶対利用しないというわけではないが、たぶん利用しない」と回答された方に伺います。利用しないのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 証明書の取得手続きが面倒だから
2. 証明書発行にお金がかかるから (
3. 必要性を感じないから
4. 証明書を利用する機会があまりないから
5. 法律によって保障される制度ではないから
6. 表面的なもので実効力がないから
7. 異性間のパートナーシップと区別されるのが嫌だから
8. 周囲に知られたくないから
9. トランスジェンダーに配慮がないから
10. その他 (具体的に：)

Q15SQ2 Q15で「3. 必ず利用するかどうかわからないが、たぶん利用する」「4. 必ず利用する」と回答した方に伺います。利用しようと思うのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. パートナーや子どもの入院・手術など病院関連のことで、これまでに困ったことがあったから (これからあるかもしれないから)
2. パートナーと住まいを探すときに、これまでに困ったことがあったから (これからあるかもしれないから)
3. 職場で配偶者関連の福利厚生を受けたいから
4. パートナーであることを公的機関から証明してもらうこと自体がうれしいから
5. 当然の権利だと思うから

6. 今後役に立つかもしれないから

7. その他（具体的に： _____)

Q16 渋谷区の同性パートナーシップ証明書も世田谷区のパートナーシップ宣誓書も法的な保障制度ではありません。あなたは、日本においても、同性カップルに対する法的な保障制度が必要だと思いますか。必要だと思われる制度について、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 異性間の法的婚姻制度と同じ同性間の法的な婚姻制度
2. 異性間の法的婚姻制度とは異なる形での法的な保障をとまなうパートナーシップ制度
3. 渋谷区や世田谷区のように法的保障は伴わないけれど、パートナーであることを証明できる制度
4. 法的婚姻ではなく、異性カップル・同性カップルにこだわらない事実婚の形で法的な保障を受けられる制度
5. その他（具体的に： _____)

Q17 あなたは同性カップルが親として子どもを養育することについて、どのように思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. よい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

Q18 あなたは日常生活において、LGBTであるからということで不便、不自由を感じることはありますか？aからcについてあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

	1. ほとんど ない	2. あまり ない	3. ときどき ある	4. よくある	5. LGBTで はない
a.人づきあい					
b.日常生活					
c.様々な保障 制度					

【以下では、あなたご自身のことやご家族のことについて伺います。集計・分析に必要な質問項目ですので、趣旨をご理解の上、できるだけお答えください】

Q19 あなたは現在おいくつですか。あなたの年齢を（ ）に数字で記入してください。

() 歳

Q20 あなたのおすまいはどちらですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 渋谷区 |
| 2. 東京 23 区 (渋谷区を除く) |
| 3. 東京都下 (三鷹市、小平市、国立市、八王子市など都内市部及び町村) |
| 4. 東京近郊県 (千葉県、埼玉県、神奈川県、茨城県) |
| 5. 北関東 (群馬県、栃木県、福島県) |
| 6. 甲信越 (山梨県、長野県、新潟県) |
| 7. その他 (具体的に :) |

Q21 あなたはどなたと暮らしていらっしゃいますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|----------|--------------------|
| 1. 一人暮らし | 6. パートナー |
| 2. 自分の父親 | 7. 自分あるいはパートナーの子ども |
| 3. 自分の母親 | 8. パートナーの父親 |
| 4. 兄弟姉妹 | 9. パートナーの母親 |
| 5. 祖父母 | 10. その他 (具体的に :) |

Q22 あなたのご職業について伺います。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| 1. 正社員・正規職員 | 5. 非正規社員・職員 (パート・アルバイト・派遣等) |
| 2. 会社経営者・会社役員 | 6. 学生 |
| 3. 自営業主 (自由業を含む) | 7. 無職 (主婦を含む) |
| 4. 家族従業者 | 8. その他 (具体的に :) |

Q23 あなたは、現在お付き合いされている方はいらっしゃいますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|-------|--------|-------------------|
| 1. いる | 2. いない | 3. 過去にはいたが、現在はいない |
|-------|--------|-------------------|

Q24 あなたのセクシュアリティについて伺います。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. LGBT（セクシュアルマイノリティ）ではない（→アンケートは終了です。ご協力ありがとうございます）
2. LGBT（セクシュアルマイノリティ）である（→Q25へ）
3. わからない（→Q25へ）

Q25 生涯をともに歩んでいこうと思う特定のパートナーの方ができた場合、あなたは、どのようなことを望みますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. パートナー証明書の取得
2. 結婚式を挙げる
3. 二人で落ち着いて暮らすことのできるすまいを探す
4. 職場で二人の関係を理解してもらう
5. 友人に二人の関係を理解してもらう
6. 両親や家族に二人の関係を理解してもらう
7. その他（具体的に： _____）

Q26 生涯をともに歩んでいこうと思う特定のパートナーの方ができた場合、あなたは、パートナーの方と子どもをもちたいですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. パートナーもしくは自分と血のつながった子どもを持ちたい
2. パートナーもしくは自分と血がつながっていても子どもを持ちたい（養子など）
3. 子どもはもちたいとは思わない
4. パートナーの意向による
5. その他（具体的に： _____）

Q26SQ1 Q26で「1. パートナーもしくは自分と血のつながった子どもを持ちたい」、「2. パートナーもしくは自分と血がつながっていても子どもを持ちたい（養子など）」と回答された方に伺います。それはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 互いのどちらかとも血のつながった子孫を残したいから
2. パートナーとして暮らす以上やはり子どもはもちたいから

3. 子育てをしてみたいから
4. 親になってみたいから
5. その他（具体的に： _____)

Q26SQ2 Q26で「3. 子どもはもちたいと思わない」と回答された方に伺います。それはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 親が LGBT であると子どもがかわいそうだから
2. 子どもをもつことは大変そうだから
3. 子育てはしたくないから
4. 親になりたくないから
5. その他（具体的に： _____)

Q27 あなたの身体的性と性自認について伺います。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 身体的性も性自認も男性である
2. 身体的性も性自認も女性である
3. 身体的性は男性だが、性自認は女性である (MtF)
4. 身体的性は女性だが、性自認は男性である (FtM)
5. 身体的性は男性だが、性自認は男性でも女性でもない (MtX)
6. 身体的性は女性だが、性自認が女性でも男性でもない (FtX)
7. 身体的性、性自認とも男性、女性のどちらでもない (XtX)
8. その他（具体的に： _____)

Q28 あなたの性的指向についてお伺いします。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. ヘテロ（異性愛）
2. ゲイ（男性同性愛）
3. レズビアン（女性同性愛）
4. バイセクシュアル（両性愛）
5. パンセクシュアル（全性愛：性別にこだわらず、愛情と性的欲求を感じる）
6. ノンセクシュアル（非性愛：愛情は感じるが、性的欲求を感じない）
7. アセクシュアル（無性愛：愛情も性的欲求も感じない）

8. その他（具体的に： _____）

Q29 あなたがご自身の性自認や性的指向について自覚されたのはいつごろからですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 小学校入学前 | 5. 高校生（16歳から18歳） |
| 2. 小学校低学年（1年生から3年生） | 6. 大学生以上（19歳以上） |
| 3. 小学校高学年（4年生から6年生） | 7. その他（具体的に： _____） |
| 4. 中学生 | |

Q30 あなたはご自身がLGBT（セクシュアルマイノリティ）であることを周りの方にカミングアウトしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

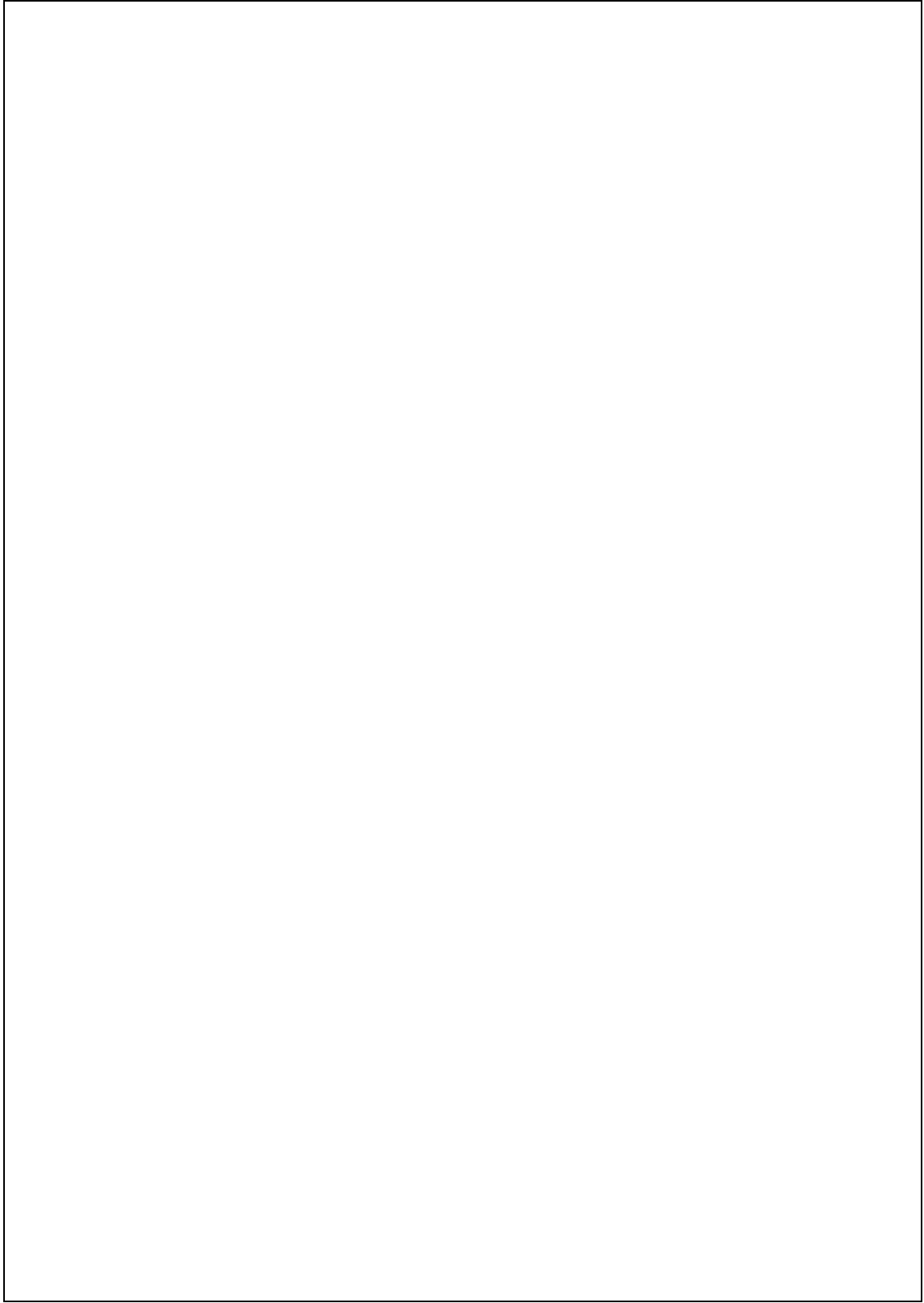
- | |
|------------------------------|
| 1. だれにもしていない |
| 2. 一部の人にだけしている（→Q30SQ1へ） |
| 3. 家族、友人・知人、職場、学校など全ての人にしている |

Q30SQ1 Q30で「2. 一部の人にだけしている」と回答された方に伺います。具体的にはどなたにカミングアウトされていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 父親 | 8. 学校（時代）の先生 |
| 2. 母親 | 9. 職場の同僚 |
| 3. 兄弟姉妹 | 10. 職場の上司 |
| 4. 祖父母 | 11. 近所の人 |
| 5. 親戚（おじ・おば・いとこなど） | 12. パートナー |
| 6. 幼なじみ | 13. その他（具体的に： _____） |
| 7. 学校（時代）の友人 | |

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

今回のイベントやこのアンケートに関しまして、ご意見・ご感想がありましたら、以下にご自由にお書きください。



あとがき（調査を終えて）

「東京レインボープライド 2017」への来場者は、5月6日は約 35000 人、7日は約 65000 人、両日で 10 万人を超え、前年度の 7 万人を遥かに超える盛況ぶりであった。2015 年の来場者は 5 万人であり、年々来場者は増加している（「東京レインボープライド 2017」HP より）。LGBT 当事者でない方々もかなり参加しており、また、アンケート結果からは、「初めて」、「2回目」という来場者が多く、初めての来場者に加えて、昨年来場された方がリピーターとして来場され、さらに都内だけではなく、東京近郊区からの来場者が増えた結果であることが読み取れる。

本調査の中心的な目的は、「東京レインボープライド」の催しに対する感想、意見を伺い、翌年度の改善点の参考にしていただくということであるが、多様な LGBT の方々に「共通してみられる経験・意識」を見出そうとする学術的な関心も含んでいる。

ここ数年で、LGBT 当事者の方を対象とした量的調査（アンケート調査）もみられるようになってきたが、これまでは LGBT の方々を対象とした調査といえば、インタビューなどの質的調査法に基づく、各個人ごとの事例調査が主体であった。つまり、「多様な LGBT の方々」の「多様な個別の経験・意識」を明らかにするという調査である。しかし、今回の調査は、調査票に基づく量的調査であり、多様な LGBT の方々の「個別の経験・意識」ではなく、多様な LGBT の方々に「共通してみられる経験・意識」を見出すことが可能である。本調査は、来場者を対象としたとはいえ、調査に協力してくださった方は、約 10 万人の来場者の極一部である。さらに言えば、今回の催しに来場した LGBT の方々を対象としている調査であるため、必ずしも「日本の」LGBT の方々を代表しているとはいえない。とはいえ、本調査により、「多様な LGBT の方々」が共通して抱えている問題、意識を発見する糸口を見出すことができたといえるのではないだろうか。また、来場者には LGBT 当事者でない方も含まれているため、意識の比較も行うことができた。

冒頭の調査概要では、昨年一昨年と同じ調査項目に関しては、可能な限り以前の数値との比較を言及している。本調査結果が、来年度のレインボープライドのイベントへの参考となるばかりでなく、LGBT の方々の実態を少しでも明らかにすることができるものであることを期待している。

このたびの調査では、当日配布した紙媒体の調査票に加えて、ほぼ 2 ヶ月の期間を設けての web 調査も実施した。しかし、これらの調査票の連動がうまくいかず、回答者の方々には多大なご迷惑をおかけしてしまったことを、心よりお詫びしたい。

最後に、本調査の実施を快諾してくださった「東京レインボープライド 2017」の共同代表者である山縣真矢さんと杉山文野さん、そして、何よりも本調査にご回答くださった来場者の方々に感謝し、本報告書の結びとする。

2018 年 2 月吉日

駒澤大学文学部社会学科 松信ひろみ

「東京レインボープライド 2017 来場者アンケート調査」報告書

2018 年 2 月 26 日発行

発行 駒澤大学文学部社会学科社会学専攻

松信ひろみ研究室（社会学演習Ⅰ）

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1 - 2 3 - 1

第一研究館 1515

電話 03 (3418) 9298 (研究室直通)

Email:mhiromi@komazawa-u.ac.jp